教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 英語グローバル学科　　資格： 教授　　氏名： 田中　真由美

研究分野	研究内容のキーワード
英語教育学．応用言語学	リーディング，異文化理解，批判的リテラシー，工学系英語教育，内容言語統合型学習，小学校英語教育
学位	**最終学歴**
PhD in English Language Teaching and Applied Linguistics, MA in English Language Studies and Methods with Distinction, 修士（文学）	The University of Warwick, Centre for Applied Linguistics 博士課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.オンデマンド授業科目での動画等の配信	2020年4月～2023年1月	Google Classroomによるオンデマンド形式の講義科目で講義動画と配布資料を用いて授業を行った。
2.児童英語教育に関するアクティブ・ラーニング型授業の実践	2018年4月～現在	児童英語教育に関する授業において、教材・指導案作成ためのグループによる協働的な学習やリアクション・ペーパーによって、学生が能動的に学習する機会を提供している。
3.卒業研究における自律的・協働的な学習の促進	2018年4月～現在	大学３、４年生を対象とした卒業研究の授業において、学生の自律的・協働的な学習を促すために、レポートや卒業論文の評価の観点表を配布し、各自で取り組み状況を点検する活動を行ったり、課題のグループ発表活動を行ったりしている。
4.英語科の学習指導案作成と模擬授業のためのルーブリックの活用	2017年4月～現在	英語科指導法の授業における学習指導案と模擬授業のためのルーブリックを作成し、学生にも自己評価基準として活用させることで、主体的な学習を促している。
5.教員採用試験対策講座の実施	2017年4月～現在	特別教育科目、リテラシーアッププログラム等の正課外教育として教員採用試験対策講座を開き、面接試験と模擬授業の指導を行っている。
6.ライティング・プラザを活用した英語多読プログラムの実施	2017年4月～2020年3月	英語リーディング科目で多読プログラムを実施し、学生が英語で書いた書評を添削してもらえるよう、学内のライティング・プラザと連携した。
7.英語多読プログラムの開発と実施	2008年4月～2013年9月	授業内外で学生が英語に触れる機会を増やすための英語多読プログラムと教材を開発した。各図書の総語数と英語の難易度を表す数値を記載したシールを見返しに、難易度ごとに色分けしたシールを背表紙にそれぞれ貼ることで、学生が自分の英語力に合った図書を選べるようにしたり、授業内外で読んだ本のタイトルや語数、短い感想を指定の記録帳に記入させたりするなど、自律的な英語学習のための工夫を行った。
2 作成した教科書、教材		
1.The Focus：Global Business Communication　グローバルキャリアへのステップ－国際業務で求められる英語と知識（研究業績等に関する事項・著書に再掲）	2025年2月	辻和成・米田みたか・細野健二・田中真由美・Anita L. Aden　三修社
2.APPLAUSE English Communication III（研究業績等に関する事項・著書に再掲）	2025年2月	著作者：菅正隆・田中真由美・他６名　概要：高等学校「英語コミュニケーションIII」の検定教科書を執筆・編集した。（田中担当：編集、本文、リスニング等）（発行所：開隆堂）
3.BLUE SKY English Course 1, 2, 3（研究業績等に関する事項・著書に再掲）	2025年2月	馬場哲生・田中真由美　・他120名　概要：中学校1, 2, 3年生用英語検定教科書（計3冊）の執筆・校閲を担当した。（田中担当：編集、本文、本文の内容理解に関する問題等）（発行所：啓林館）武庫川女子大学の授業科目「英語科指導法Ⅰ」で使用。
4.専門教育科目「異文化理解Ⅰ・Ⅱ」の教材作成	2024年4月	2024年度1年次必修専門教育科目「異文化理解Ⅰ・Ⅱ」の教科書の各章に準拠した予習課題と確認テストを学科教員（三浦秀松，松原陽子，福本由紀子，川西慧，三宅弘晃，前原澄子，冨永英夫，佐々木顕彦，田中真

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
		由美，山根明敏）と協同作成し、冊子化した。
5.APPLAUSE English Communication II（研究業績等に関する事項・著書に再掲）	2023年2月	著作者：菅正隆・田中真由美・他６名　概要：高等学校「英語コミュニケーションII」の検定教科書を執筆・編集した。（田中担当：編集、本文、リスニング等）（発行所：開隆堂）
6.Amity English Communication II（研究業績等に関する事項・著書に再掲）	2023年2月	著作者：菅正隆・田中真由美・他６名　概要：高等学校「英語コミュニケーションII」の検定教科書を執筆・編集した。（田中担当：編集、本文、リスニング等）（発行所：開隆堂）
7.APPLAUSE English Communication I（研究業績等に関する事項・著書に再掲）	2022年2月	著作者：菅正隆・小金丸倫隆・田中真由美・蛭田勲・吉田章人・ラムリ優美・開隆堂出版編集部　概要：高等学校英語検定教科書「英語コミュニケーションⅠ」を執筆・編集した。（田中担当：編集、本文、リスニング等）（発行所：開隆堂）武庫川女子大学授業科目「英語科指導法Ⅳ」で使用。
8.Amity English Communication I（研究業績等に関する事項・著書に再掲）	2022年2月	著作者：菅正隆・小金丸倫隆・田中真由美・蛭田勲・吉田章人・ラムリ優美・開隆堂出版編集部　概要：高等学校英語検定教科書「英語コミュニケーションⅠ」を執筆・編集した。（田中担当：編集、本文、リスニング等）（発行所：開隆堂）
9.BLUE SKY English Course 1, 2, 3（研究業績等に関する事項・著書に再掲）	2021年2月	狩野晶子・田中真由美・他70名　概要：中学校1，2，3年生用英語検定教科書（計3冊）の執筆・校閲を担当した。（田中担当：編集、本文、本文の内容理解に関する問題等）（発行所：啓林館）武庫川女子大学の授業科目「英語科指導法Ⅰ」で使用。
10.小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ―小学校外国語科内容論（研究業績等に関する事項・著書に再掲）	2017年7月	編著者：酒井英樹・滝沢雄一・亘理陽一　執筆箇所「第1章コミュニケーション能力」滝沢雄一・田中真由美（pp. 11-19）「第15章異文化理解」田中真由美（pp.185-196）　第1章ではコミュニケーションの定義、異文化間コミュニケーション、コミュニケーション能力について紹介した（共同執筆）。第15章では異なる文化の扱い方に関する考え方を紹介し、授業の中で文化を扱う際の留意点を論じた（単独執筆）。（発行所：三省堂）。武庫川女子大学の授業科目「児童英語教育A」で教科書として使用。
11.ものづくり教育と英語教育を統合させたCLILの教材	2014年4月～現在	工学の専門教員と共にものづくりと英語教育を統合させた内容言語統合型学習（CLIL）の教材作成を継続して行っている。これまでは高専においてモデルカーの組み立て、バイスの組み立て、ロボットの製作に関する英語教育の教材や学習評価用ルーブリックを作成してきた。現在は工学系大学院の学生向けのCLIL教材を開発している。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.英語科教諭としての実務経験	2005年4月～2007年9月	公立学校教員採用選考試験に合格し、英語科教諭として公立高校に勤務した。
4 その他		
1.福井県と連携した就職支援協定事業の実施	2024年11月	就職支援協定を締結している福井県と連携し、産業労働部国際経済課国際交流・多文化共生グループによる「福井県の多文化共生の取組み」をテーマとした特別講義講義を実施した。
2.日本語教育学セミナーの開催	2024年7月	第二言語・外国語としての日本語教育学セミナーを開催し、講師として関西外国語大学外国語学部の川光真二先生を招いた。
3.学科FD「AIと英語教育・学習」	2024年2月	英語グローバル学科FDにて、全国大学実務教育協会「能動的学修の教員研修リーダー講座」参加報告と「英語学習のためのAIツール使用（調査報告と示唆）」に関する発表を行った。
4.附属中高との連携	2024年1月	武庫川女子大学英語グローバル学科で教職課程を履修している学生が、実際の授業を観察することで英語の指導方法等を学べるよう、附属中高の授業参観の引率

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		を行った。
5.福井県と連携した就職支援協定事業の実施	2024年1月	就職支援協定を締結している福井県と連携し、福井県教育委員会指導主事による講義を教職課程履修者を対象に実施した。
6.第１０回「能動的学修の教員研修リーダー講座」受講	2023年8月～9月	一般財団法人全国大学実務教育協会主催の第10回「能動的学修の教員研修リーダー講座」（計3日間）に参加し、能動的学修の学びの技法、授業デザイン、学修成果の評価について学んだ。
7.多文化共生セミナーの開催	2023年7月	多文化共生センターひょうごの方を講師として招き、英語グローバル学科、英語文化学科の学生を対象に「多文化共生と教育」をテーマとしたセミナーを開催した。
8.高大接続事業・入学前講義	2023年2月	高大連携事業・入学前講義として武庫川女子大学附属高校3年生に対して英語学習者が目指す英語力に関する講義と演習を行った。
9.教職課程自己点検・評価報告書の執筆	2022年9月～2023年2月	一般社団法人全国私立大学教職課程協会に提出する英語文化学科の「教職課程自己点検・評価報告書」を執筆した。
10.大学院（修士課程）論文指導	2021年4月～2023年3月	武庫川女子大学大学院・文学研究科・英語英米文学専攻に在籍している2名の学生の修士論文指導を行った。
11.附属中高との連携	2020年2月	武庫川女子大学英語文化学科で教職課程を履修している学生が、実際の授業を観察することで英語の指導方法等を学べるよう、附属中高の授業参観の引率を行った。
12.附属中高との連携	2019年2月	武庫川女子大学英語文化学科、英語キャリア・コミュニケーション学科で教職課程を履修している学生が、実際の授業を観察することで英語の指導方法等を学べるよう、附属中高の授業参観の引率を行った。
13.高大接続事業・入学前講義	2019年2月	高大連携事業・入学前講義として武庫川女子大学附属高校3年生に対して英語多読活動に関する講義と演習を行った。
14.担任業務	2018年4月～2023年3月	武庫川女子大学英語文化学科の担任を務めた。（2018年大英１B、2019年大英２B、2020年大英１C、2021年大英１A、2022年大英２A）
15.海外留学引率（アメリカ）	2018年2月～2018年3月	武庫川女子大学アメリカ分校留学の長期引率（約2か月）を行った。
16.English Teaching Seminarの開催	2017年11月～現在	年に1回、教職に就いた英語文化学科の卒業生等を講師として招いてEnglish Teaching Seminarを開催し、教職課程履修者に教職の魅力や教員採用試験のための学習方法を伝えている。
17.教育実習引率指導	2017年4月～現在	小・中・高教育実習の引率指導として授業参観と指導助言を行っている。
18.英語学習支援	2017年4月～現在	武庫川女子大学英語学習相談室の相談員として希望者を対象とした英語学習の支援を行っている。
19.教職課程履修者への支援	2017年4月～現在	武庫川女子大学英語文化学科、英語グローバル学科、英語キャリア・コミュニケーション学科の教職課程履修者を対象にガイダンス、セミナー、教採対策講座（特別教育科目）、進路相談等を実施している。
20.ライティング・プラザの活用	2017年4月～2019年3月	武庫川女子大学英語文化学科ライティング・プラザ委員として英語の授業科目でのライティング・プラザの活用を提案した。
21.修士論文審査	2014年2月～2017年2月	信州大学大学院学校教育研究科にて英語教育に関する修士論文の副査を8件担当した。
22.海外研修引率（シンガポール・マレーシア）	2013年3月	長岡高専の学生をシンガポール・マレーシアに引率した。シンガポールでの南洋工科大学、シンガポール国立大学、リパブリック・ポリテクニック、バイオポリス研究所の訪問、マレーシアでの文化体験の企画及び学生指導を行った。
23.スピーチ指導（第6回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト）	2013年1月	スピーチの指導をした学生が第6回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト・スピーチ部門で第

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		3位に入賞した。
24.英作文指導（第48回全国高等学校生徒英作文コンテスト）	2012年11月	英作文の指導をした学生が第48回全国高等学校生徒英作文コンテストで優良賞に入賞した。
25.スピーチ指導（長岡ユースフォーラム第17回高校生英語スピーチコンテスト）	2011年5月	スピーチの指導をした学生が長岡ユースフォーラム第17回高校生英語スピーチコンテストで第2位（フォートワースInternational Leadership Academy参加賞）を受賞した。
26.スピーチ指導（第4回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト）	2011年1月	スピーチの指導をした学生が第4回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト・スピーチ部門で第2位に入賞した。
27.海外研修引率（オーストラリア）	2010年8月	長岡高専の学生をオーストラリアのブリスベンに引率した。現地の高校訪問、ホームステイ、文化体験等の企画及び学生指導を行った。
28.海外研修引率（オーストラリア）	2010年3月	長岡高専の学生をオーストラリアのブリスベンに引率した。現地の高校訪問、ホームステイ、文化体験等における学生指導を行った。
29.英語多読・多聴授業のための資金獲得	2009年7月	長岡工業高等専門学校における平成21年度重点施策経費（学内競争的資金）に教育環境・学習環境の整備のための課題「英語多読・多聴授業」（申請代表）が採択された。
30.自律的英文多読活動実践のための資金獲得	2008年10月	長岡工業高等専門学校における平成20年度重点施策経費（学内競争的資金）に教育環境・学習環境の整備のための課題「自律的英文多読活動実践」（申請代表）が採択された。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.実用英語技能検定1級	2005年7月	
2.高等学校教諭専修免許状 外国語（英語）科	2005年3月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.高等学校での教員経験	2005年4月～2007年9月	英語科教諭として新潟県内の公立高校に勤務した。
4 その他		
1.「中高英語の自己表現力を高める指導～言語活動を効果的に取り入れる～」研修講師	2024年11月	長野県総合教育センター主催の中・高の英語教員を対象とした研修講座の講師を務めた。
2.地域別教育懇談会参加	2024年9月	武庫川女子大学教育懇談会（広島会場）に学校教育センター常任委員として参加した。
3.女性研究リーダー育成推進センター WGメンバー	2024年4月～現在	令和5年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業　ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）の一環として、武庫川女子大学女性研究リーダー育成推進センターで大学院生・若手研究者支援を担当。
4.教育総合研究所　研究員	2024年4月～現在	武庫川女子大学教育総合研究所　研究員
5.女性活躍総合研究所　研究員	2024年4月～現在	武庫川女子大学女性活躍総合研究所　グローバル化推進部門　研究員
6.オープンキャンパス「ミニ講義」	2024年3月	武庫川女子大学オープンキャンパスの英語グローバル学科英語文化専攻「ミニ講義」で異文化理解に関する講義を行った
7.「中学校・高校英語　応用　～自己表現を高める指導～」研修講師	2023年11月	長野県総合教育センター主催の中・高の英語教員を対象とした研修講座の講師を務めた。
8.学校教育センター主催シンポジウム（研究員集会）指定討論者	2023年3月	学校教育センター（教師教育研究部門）主催の令和4年度の学内シンポジウム（研究員集会）「本学教員養成の課題について－『自己点検評価報告書』から見えてくるもの－」に指定討論者として参加した。
9.地域別教育懇談会参加	2022年8月	武庫川女子大学教育懇談会（福岡会場）に学校教育センター常任委員として参加し、参加者からの教職に関する質問等に対応した。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
10.教務委員	2022年4月～現在	武庫川女子大学・学校教育センター教務委員を務めている。
11.入試担当委員	2022年4月～2023年3月	武庫川女子大学にて入試業務を行った。
12.学校教育センター学内研究員	2020年4月～2024年3月	武庫川女子大学学校教育センター学内研究員として、教師教育に関する研究を行った。
13.学校教育センター常任委員	2020年4月～現在	武庫川女子大学学校教育センター常任委員として教職課程の業務を行っている。
14.地域別教育懇談会参加	2019年8月	武庫川女子大学教育懇談会（広島会場）に参加し、参加者からの質問等に対応した。
15.オープンキャンパス「ミニ講義」	2019年7月	オープンキャンパスの「ミニ講義」で英語のコミュニケーション能力に関する講義を行った。
16.入試担当委員	2019年4月～2021年3月	武庫川女子大学にて入試業務を担当した。
17.学校教育センター委員	2018年4月～2020年3月	武庫川女子大学学校教育センター委員として英語文化学科と英語キャリア・コミュニケーション学科の教職課程の業務を行った。
18.第33回武庫川学院英語オラトリカルコンテスト予選審査員	2017年11月	オラトリカルコンテストの学内予選の審査員を務めた。
19.第103回わくわく学習教室・講師（講座名：英語の絵本で楽しむ色と形の世界）	2017年9月	新興出版社啓林館本社にて小学校３・４年生を対象とした英語の授業を行った。
20.第102回わくわく学習教室・講師（講座名：英語で理科を学ぼう！～絵本で学ぶ生物の一生～）	2017年9月	新興出版社啓林館本社にて小学校5・6年生を対象とした英語の授業を行った。
21.オープンキャンパス「ミニ講義」	2017年8月	武庫川女子大学オープンキャンパスの英語文化学科「ミニ講義」で英語のコミュニケーション能力に関する講義を行った。
22.人権教育専門委員	2017年4月～2018年3月	武庫川女子大学人権教育専門委員を務めた。
23.信州大学教育学部附属松本小学校外国語授業研究会・指導者	2017年2月	信州大学教育学部附属松本小学校４年生を対象とした外国語活動の授業研究会で指導・助言を行った。
24.平成28年度英語指導力アップスキルプロジェクト第８回研修会・指導者	2017年2月	文部科学省指定事業「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」の関連事業として長野西高等学校で行われた研修会で運営指導委員として英語教育に関する指導・助言を行った。
25.平成28年度英語指導力アップスキルプロジェクト第７回研修会・指導者	2017年1月	文部科学省指定事業「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」の関連事業として長野西高等学校で行われた公開授業の授業研究会で運営指導委員として英語教育に関する指導・助言を行った。
26.長野県教育委員会平成28年度教職員研修事業・研修講師（講座名：英語の授業を英語で行うために～Teaching English through English～）	2016年12月	長野県総合教育センターで行われた研修講座で、中・高の英語教員を対象とした英語による英語の授業力向上のための講義・演習の講師を務めた。
27.飯山市教育委員会信州大学連携事業「小中学生の学力向上事業」飯山市立城南中学校英語科研究授業・指導者	2016年11月	飯山市立城南中学校１年生と３年生の英語授業研究会で指導・助言を行った。
28.2016年度長野県教育研究集会・共同研究者	2016年11月	長野県教職員組合連絡協議会が主催し、長野工業高等学校で開催された長野県教育研究集会の外国語活動・外国語教育の分科会で、小・中・高の現職教員による実践報告に関して議論及び助言を行った。
29.飯山市教育委員会信州大学連携事業「小中学生の学力向上事業」飯山市立城北中学校英語科研究授業・指導者	2016年10月	飯山市立城北中学校３年生の英語授業研究会で指導・助言を行った。
30.第35回長野県中学校英語弁論大会・審査員	2016年10月	長野県総合教育センターで開催された中学生英語弁論大会の審査員を務めた。
31.信州大学教育学部附属松本小学校中学年部会・指導者	2016年7月	信州大学教育学部附属松本小学校4年生対象の外国語活動の授業実践に関して指導・助言を行った。
32.小諸市立千曲小学校外国語活動公開授業・授業研究会指導者	2016年7月	長野県英語教育強化拠点事業における千曲小学校の公開授業及び授業研究会にて指導・助言を行った。
33.平成28年度教員免許状更新講習・講師（講座名：CAN-DO リストの形での学習到達目標の活用）	2016年7月	教員免許状更新講習の講師として、英語教育に携わる小・中・高の教員を対象に、CAN-DOリストの形での学習到達目標、目標に準拠したタスク及びパフォーマンス評価基準の作成の方法に関する講義及び演習を行った。
34.長野県北部高等学校英語科研究授業・授業研究会指	2016年6月	長野県北部高等学校の初任者研修に係るコミュニケー

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
導者		ション英語Ｉの研究授業及び授業研究会で指導・助言を行った。
35.平成28年度信州大学教育学部附属学校研修教員・指導教員	2016年4月～2017年2月	長野県教育委員会より信州大学教育学部附属長野中学校に派遣された英語科研修教員２名の研究指導を定期的に行った。
36.長野県教育委員会平成27年度教職員研修事業・研修講師（講座名：英語の授業を英語で行うために～Teaching English through English～）	2015年12月	長野県総合教育センターで行われた研修講座で、中・高の英語教員を対象とした英語による英語の授業力向上のための講義・演習の講師を務めた。
37.信州大学教育学部附属松本中学校英語科全校研究授業・指導者	2015年12月	信州大学教育学部附属松本中学校２年生対象の英語授業の学習指導案や授業実践に関して指導・助言を行った。
38.2015年度長野県教育研究集会・共同研究者	2015年11月	長野県教職員組合連絡協議会が主催し、長野県伊那市立春富中学校で開催された長野県教育研究集会の外国語活動・外国語教育の分科会で、小・中・高の現職教員による実践報告に関して議論及び助言を行った。
39.飯山市教育委員会信州大学連携事業「小中学生の学力向上事業」飯山市立城南中学校英語科授業研究会・指導者	2015年10月・2015年11月	長野県飯山市城南中学校3年生の英語の授業を参観し、研究協議会では生徒が場面や文脈に合わせて既習表現を自ら選んで伝える能力を高める指導及び評価の在り方について指導・助言行った。
40.飯山市教育委員会信州大学連携事業「小中学生の学力向上事業」飯山市立戸狩小学校外国語活動授業研究会・指導者	2015年10月・2015年11月	長野県飯山市立戸狩小学校5年生の外国語活動の授業を参観し、研究協議会で外国語活動における言語活動の在り方や、ティーム・ティーチングの方法について指導・助言を行った。
41.第34回長野県中学校英語弁論大会・審査員	2015年10月	長野県総合教育センターで開催された中学校英語弁論大会の審査員を務めた。
42.TOEIC試験対策集中講座・講師	2015年8月	国立大学法人長岡技術科学大学でTOEIC試験対策の集中講座を担当した。
43.平成27年度教員免許状更新講習・講師（講座名：CAN-DOリストの形での学習到達目標に準拠したタスクとパフォーマンス評価基準の作成）	2015年8月	教員免許状更新講習の講師として、英語教育に携わる小・中・高の教員を対象に、CAN-DOリストの形での学習到達目標、目標に準拠したタスク及びパフォーマンス評価基準の作成の方法に関する講義及び演習を行った。
44.小諸市立南ガ丘小学校外国語活動公開授業・指導者	2015年7月	長野県英語教育強化拠点事業における南ガ丘小学校の外国語活動公開授業及び授業研究会にて指導・助言を行った。
45.長野県教育委員会平成27年度CET（英語中核教員養成プログラム）研修会・講師	2015年5月～2016年1月	長野県総合教育センターで開催された長野県中学校英語中核教員養成プログラムで5回の研修会講師を務めた。
46.信州大学教育学部附属長野中学校教育研究会分科会（英語）ワークショップ・講師（タイトル：批判的に英語教科書を読むための発問づくり）	2015年5月	信州大学教育学部附属長野中学校教育研究会の分科会で、現職教員及び大学生に対して、生徒に中学校英語教科書を批判的に読ませるための発問づくりに関するワークショップを行った。
47.信州大学教育学部附属長野小学校外国語活動授業研究会・指導者	2015年5月	信州大学教育学部附属長野小学校5年生の外国語活動を参観し、授業研究会では異文化理解の視点での外国語活動の在り方について指導・助言を行った。
48.平成27年度信州大学教育学部附属学校研修教員・指導教員	2015年4月～2016年2月	長野県教育委員会より信州大学教育学部附属学校園に派遣された3名の研修教員の研究指導を定期的に行った。
49.信州大学教育学部附属長野小学校外国語活動臨時教材研究会・指導者	2015年4月	信州大学教育学部附属長野小学校外国語活動の臨時教材研究会で助言を行った。
50.信州大学教育学部附属長野中学校英語科「学びのワークショップ」・講師（授業名：英語で防災教育―非常用持ち出し袋に何を入れる？－）	2015年3月	信州大学教育学部附属長野中学校英語科のワークショップとして、1年生を対象に英語教育と防災教育を統合させたCLIL型授業のデモンストレーションを行った。
51.長野県教育委員会家庭学習シンポジウム・パネラー	2014年11月	長野県辰野町辰野中学校で現職教員及び市民対象に開催された「家庭学習シンポジウム」のパネラーを務めた。
52.第41回佐久地区教育研究集会・共同研究者	2014年10月	長野県野沢北高等学校で開催された佐久地区教育研究集会で、外国語教育の共同研究者を務めた。分科会で現職教員による実践報告について指導・助言及び講評

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		を行った。
53.平成26年度教員免許状更新講習・講師（講座名：小学校外国語活動内容論・基本の「き」）	2014年8月	教員免許状更新講習の講師を務めた。小学校外国語活動で扱うべき内容について、４名の大学教員と共に、英語学、コミュニケーション、第二言語習得、異文化理解の視点から外国語活動の内容について講義及び演習を行った。
54.長野県教育委員会平成26年度CET（英語中核教員養成プログラム）研修会・講師	2014年7月～2015年2月	長野県総合教育センターで開催された長野県中学校英語中核教員養成プログラムで5回の研修会講師を務めた。
55.平成26年度信州大学教育学部附属学校研修教員・指導教員	2014年4月～2015年2月	長野県教育委員会より信州大学教育学部附属長野中学校に派遣された英語科研修教員1名の研究指導を定期的に行った。
56.新潟県長岡市市民プロデュース事業「英語を使ってマイカーづくり」・指導者	2013年8月	小・中学生とその保護者を対象に、モデルカーづくりとそれに必要な英語表現を体験的に学ぶ講座を「まちなかキャンパス長岡」で開催した。
57.国立高等専門学校機構在外研究員	2011年9月～2012年3月	国立高等専門学校機構在外研究員として英国に滞在し、The University of Warwick で英語教育における異文化理解指導について研究した。
58.新潟県長岡市平成21年度ながおか市民大学・講師（講座名：「読むこと」で広げる英語の世界・第1回講座・英語で読みたい！～はじめの一歩～）	2009年11月	新潟県長岡市主催の市民大学講座の講師を務めた。合計5回の講座の内、第1回の講座を担当し、長岡高専附属図書館を会場にして社会人受講生に英語多読の意義や方法を伝えた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.The Focus：Global Business Communication　グローバルキャリアへのステップ－国際業務で求められる英語と知識	共	2025年2月	三修社	辻和成・米田みたか・細野健二・田中真由美・Anita L. Aden
2.APPLAUSE English Communication Ⅲ	共	2025年2月	開隆堂	著作者：菅正隆・田中真由美・他６名　概要：高等学校「英語コミュニケーションIII」の検定教科書を執筆・編集した。（田中担当：編集、本文、リスニング等）
3.BLUE SKY English Course 1, 2, 3	共	2025年2月	啓林館	馬場哲生・田中真由美　・他120名　概要：中学校1，2，3年生用英語検定教科書（計3冊）の執筆・校閲を担当した。（田中担当：編集、本文、本文の内容理解に関する問題等）
4.APPLAUSE English Communication II Teacher's Manual 解説編	共	2023年2月	開隆堂	菅正隆・小金丸倫隆・田中真由美・他６名　高等学校英語検定教科書Applause English Communication IIの教師用マニュアルを執筆した。（田中担当：本文、リスニング、発音等の解説）
5.Amity English Communication II Teacher's Manual 解説編	共	2023年2月	開隆堂	菅正隆・小金丸倫隆・田中真由美・他６名　高等学校英語検定教科書Amity English Communication IIの教師用マニュアルを執筆した。（田中担当：本文、リスニング、発音等の解説）
6.Amity English Communication II	共	2023年2月	開隆堂	著作者：菅正隆・田中真由美・他６名　概要：高等学校「英語コミュニケーションII」の検定教科書を執筆・編集した。（田中担当：編集、本文、リスニング等）
7.APPLAUSE English Communication II	共	2023年2月	開隆堂	著作者：菅正隆・田中真由美・他６名　概要：高等学校「英語コミュニケーションII」の検定教科書を執筆・編集した。（田中担当：編集、本文、リスニング等）
8.Amity English Communication Ⅰ Teacher's Manual 解説編	共	2022年2月	開隆堂	菅正隆・小金丸倫隆・田中真由美・他６名　高等学校英語検定教科書Amity English Communication 1の教師用マニュアルを執筆した。（田中担当：本文、リスニング、発音等の解説）
9.Amity English Communication Ⅰ	共	2022年2月	開隆堂	著作者：菅正隆・小金丸倫隆・田中真由美・蛭田勲・吉田章人・ラムリ優美・開隆堂出版編集部　概要：高等学校英語検定教科書「英

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				語コミュニケーションⅠ」を執筆・編集した。（田中担当：編集、本文、リスニング等）
10.APPLAUSE English Communication I	共	2022年2月	開隆堂	著作者：菅正隆・小金丸倫隆・田中真由美・蛭田勲・吉田章人・ラムリ優美・開隆堂出版編集部　概要：高等学校英語検定教科書「英語コミュニケーションⅠ」を執筆・編集した。（田中担当：編集、本文、リスニング等）
11.BLUE SKY English Course 1,2,3 Teacher’s Manual ①解説編	共	2021年2月	啓林館	啓林館編集部・田中真由美・他３名　中学校英語検定教科書編集委員会の委員としてBLUE SKY English Course 1,2,3の教師用マニュアル（計3冊）を執筆した。（田中担当：本文の言語材料等の解説）
12.BLUE SKY English Course 1, 2, 3	共	2021年2月	啓林館	狩野晶子・田中真由美・他70名　概要：中学校1,2,3年生用英語検定教科書（計3冊）の執筆・校閲を担当した。（田中担当：編集、本文、本文の内容理解に関する問題等）
13.小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ－小学校外国語科内容論	共	2017年7月	三省堂	編著者：酒井英樹・滝沢雄一・亘理陽一　執筆箇所「第1章コミュニケーション能力」滝沢雄一・田中真由美（pp. 11-19）「第15章異文化理解」田中真由美（pp.185-196）　第1章ではコミュニケーションの定義、異文化間コミュニケーション、コミュニケーション能力について紹介した（共同執筆）。第15章では異なる文化の扱い方に関する考え方を紹介し、授業の中で文化を扱う際の留意点を論じた（単独執筆）。
2 学位論文				
1.Appropriate pedagogy for critical reading in English in the Japanese secondary school context: An action research investigation	単	2015年11月	The University of Warwick, 博士論文	（全332頁）日本の中等英語教育において適切なクリティカル・リーディングの指導とはどのようなものであるかをアクション・リーサーチの手法を用いて長期的に探究し、批判的談話分析を理論的背景としたクリティカル・リーディングのための発問の枠組みを構築した。
2.The role and self of the narrators in the fictions of Martin Amis	単	2005年1月	新潟大学，修士論文	（全75頁）イギリス現代作家のマーティン・エイミスの代表的な5作品について論じた。エイミスは実験的な語りの技巧によってポストモダンの小説家であるように見えるが、自らの道徳的価値観を読者と共有したいと願う伝統的作家であることをテクスト分析と伝記的分析によって明らかにした。
3.An investigation of cultural issues in English language teaching: An analysis of cultural materials in Japanese textbooks of English	単	2004年9月	The University of Warwick, 修士論文	（全97頁）日本の英語教育で文化がどのように扱われているかを、高校の英語検定教科書を分析して考察した。内容を量的に分析した後、批判的談話分析を行い、アメリカ白人文化の優越性が暗示されている一方で国粋主義的な傾向も見られることを明らかにした。
3 学術論文				
1.異なる母語を持つ英語使用者のポライトネス・ストラテジー比較	共	2025年3月	Mukogawa Literary Review 62（武庫川女子大学英文学会）pp. 95-109	管楓花・盛田有貴・田中真由美　概要：異なる母語を持つ英語使用者らがほめ言葉や批判に対してどのようなポライトネス・ストラテジーを用いるかを談話完成テストを用いて比較し、英語教育への示唆を述べた。
2.英語文化専攻「異文化理解Ⅰ」の概要と実践（査読付）	共	2025年3月	Mukogawa Literary Review 62（武庫川女子大学英文学会）pp. 25-38	田中真由美・三浦秀松・松原陽子　概要：英語グローバル学科英語文化専攻の1年次必修科目「異文化理解Ⅰ」における学生の学習への取組みに対する自己評価を分析・考察した。
3.SSH指定校における英語によるSTEAM講座の実践	単	2025年2月	学校教育センター紀要第10号，pp. 39-50（武庫川女子大学学校教育センター）	依頼論文 概要：兵庫県内のスーパーサイエンスハイスクール指定校における英語によるSTEAM講座の実践の概要と生徒らがマシュマロチャレンジを英語で行う際に活用した思考力について報告した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
4.Assessing Postgraduate Students' Engineering Content Learning Outcomes and Associated Linguistic Competencies Through CLIL-Based Instruction（査読付）	共	2025年（刊行予定）	AsiaTEFL 2024 Proceedings	Takashi Uemura, Mayumi Tanaka, Katsumi Ichimura, Naritoshi Aoyagi, Makoto Ikeda 概要：本研究は、CLILの原則に基づく英語授業を通して、日本人および留学生の大学院生（修士課程）が工学に関する内容と言語スキルをどのように身につけたかを調査した。学生は製品課題に関するプレゼンテーションと、ビジネスミーティングを想定したスピーキングタスクに取り組んだ。結果、発表では製品の強みを説明できる学生が多く、スピーキングタスクでは適切な表現を使い、具体的なデータを交えた説明ができる傾向が見られた。
5.大学英語教育における文学教材の利用に関する調査（査読付）	単	2024年3月	Profectus No. 29（武庫川女子大学大学院文学研究科英語英米文学専攻研究会）	英語文学テクストを用いたクリティカル・リーディングの教材・シラバス・指導マニュアルを開発するための事前調査として、日本の大学の英語リーディング科目のシラバスを検索し、使用されている英語文学作品のタイトルを調べてリスト化した。イギリス文学よりもアメリカ文学が、また中・長編よりも短編の作品が多く使用されていることが分かった。
6.日本人英語教師のアイデンティティー語りのshort story分析―（査読付）	共	2024年3月	学校教育センター紀要第9号，pp.16-29（武庫川女子大学学校教育センター）	田中真由美・山田雄司・根岸加奈　概要：英語教師のアイデンティティに関する共同研究を行った。共同研究者２名が約１年間、数回に渡って英語教師としての経験や考えに関して語った内容を、主に研究代表者が分析した。分析にはBarkhuizen (2016)による短い物語（short story）分析のアプローチを採用し、３つのコンテクストレベル（story、Story、STORY）と３つの内容的側面（who, where, when）から分析した結果と教師のアイデンティティ研究が教師の成長に与える影響について考察した。
7.英語絵本を用いて高めることばへの気づき―批判的言語意識を高める指導につなげるために―（査読付）	単	2024年3月	学校教育センター紀要第9号，pp. 94-107（武庫川女子大学学校教育センター）	ことばへの気づきを高めることを目的に、英語絵本を用いた外国語活動の授業を行った。絵本の読み聞かせの後、絵本で用いられている表現の音声的特徴や言語の働きに注目しながら英語と日本語との類似点や相違点についてグループで話し合う活動を行った。授業後のアンケートの回答では英語に対する興味の高まりや両言語の学習に対する意欲が見られた。
8.英語学習のためのAIツール使用に関するアンケート調査―英語リテラシー教育プログラムの実施に向けて―（査読付）	共	2024年2月	武庫川女子大学情報教育研究センター紀要31号，pp. 1-7	川西慧・田中真由美・Kevin Bartlett・佐々木顕彦・　概要：学生がAIツールを活用して英語学習を効果的に行うためにどのような指導が必要かを検討するために、英語専攻の大学３、４年生（約100名）にアンケート調査を行った。AIツールの使用態度や使用上の留意点に関する項目の回答から、AI使用を肯定するだけでなく、罪悪感や信頼性への疑念などの否定的な態度や、AIは「個人」で制御し活用するものと考えている実態、急速に普及・進化するAIとの関わり方に悩む姿がうかがえた。
9.批判的応用言語学に基づくクリティカル・リーディング研究－英語教科書や英語絵本を用いたリーディング指導法の開発－	単	2023年3月	Profectus 28（武庫川女子大学大学院文学研究科英語英米文学専攻研究会），pp. 67-84.	2022年度武庫川女子大学大学院文学研究科英語英米文学専攻講演会の講演原稿を加筆修正したものである。批判的談話分析を援用したテクスト分析の方法と、クリティカル・リーディングのための読解や発問の枠組みに関する説明及び中学校、高等学校、子供の向け英語絵本を用いた発問について説明した。また、今後の展望として、英語教育における英語文学テクストを用いたクリティカル・リーディング研究を提案した。
10.グローバル化を推進するものづくり企業で求められる英語力－プロジェクト会議からの考察－（査読付）	共	2023年3月	武庫川女子大学情報教育研究センター紀要30号，pp. 1-9.	辻和成・田中真由美・宇佐美彰規　概要：企業を取り巻く様々な外部要因の影響により世界的な不確実性の高まりが想定される中、ものづくり企業では、海外展開を視野に入れたレジリエンス経営が今まで以上に求められている。国際ビジネスにおける共通語は英語であり、現下の経営環境では将来を見据えて組織英語力を整備する必要性が高まっていると考えられる。本調査研究では、企業経営の根幹をなす商品開発に焦点を当て、プロジェクト会議で使われる英語について調査した。その調査結果に基づいて、ものづくり企業で求められる英語力を育成するためのビジネス英語教育について考察した。（田中担当：pp. 2-3の2 .製造会社での英語ニーズに関する先行研究事例、pp. 6-7の6(3)「ものづくりの英語表現力」モデル、文章校正）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
11.企業での実務会話から学ぶ工学生向けCLIL英語教材の開発と実践－技術者の職務ダイアログから学ぶ英語教育の効果－（査読付）	共	2023年1月	長岡工業高等専門学校研究紀要58巻，pp. 36-44.	市村勝己・青柳成俊・植村隆・田中真由美・池田真　概要：本著者らはこれまで、田中(2017)が提唱する4レベルのものづくりの英語表現モデルに従って、工学部学生のための革新的なCLIL教材を開発し、それを用いた英語授業を工学部専攻の大学院生に実施してきた（市村ら、2021）。本稿では、高専で学ぶ学生を対象に、開発したCLIL教材を用いた英語授業の効果について考察を試みる。考察は5回の授業後に学生が自主的に記入したアンケートへの回答に基づいたものである。（田中担当：p. 42の「まとめと今後の課題」、文章校正）
12.技術者からの調査データに基づく英語教材の開発－CLIL活用型ものづくり教材開発の実践報告－（査読付）	共	2021年7月	工学教育第69巻4号（公益社団法人日本工学教育協会）pp. 26-30.	市村勝己・植村隆・青柳成俊・田中真由美・池田真　概要：工学系大学院生を対象に、英語での伝達力と表現力を育成するための科目シラバスと教材をCLILの概念を基盤に作成し実践した。 製造・技術の経験のある日本人技術者からインタビューとアイデア出しの協力を得る他、マレーシアの製造現場における技術者への現地取材を行うことによって、実際の製造現場の言語データ収集を行った。それらのデータをもとに、ものづくりの現場におけるダイアログと映像教材を作成した。作成したダイアログを元にCLILの４Csを活用した予習教材を作成した。その後、今回開発した教材を使用して工学系大学院の受講者を対象に５回のコースで授業実践を試みた。授業実践後に受講者に対し教材に関するアンケート調査とインタビューを実施したところ、授業方法や教材に対して肯定的な回答が得られた。(田中担当：プロジェクト全体への協力・助言、文章校正)
13.CLIL for manufacturing: Japanese and international postgraduate students' perceptions of its instruction（査読付）	共	2021年3月	The Journal of the Japan CLIL Pedagogy Association Vol 3, pp. 84-109.	Takashi Uemura, Mayumi Tanaka, Katsumi Ichimura, Naritoshi Aoyagi, Makoto Ikeda 概要：工学系大学院生を対象としたものづくりを内容とした英語のCLIL授業実践を行い、コース終了時に日本人学生と留学生のCLIL授業に対する認識を調査した。授業では日本人とマレーシア人のエンジニアとで共同開発した教材を用いた。アンケート調査とインタビュー調査から、英語のスピーキング力が向上したという認識、スピーキング活動、ペア・グループ活動、予習復習教材に対するさらなる必要性の高まり、アウトプットとインプットの活動に対する日本人学生と留学生の認識の違いが見られた。（田中担当：pp. 86-90）
14.小学校の英語教育における絵本活用の在り方 ―ことばへの気づきに焦点をあてた絵本分析―（査読付）	単	2020年3月	Mukogawa Literary Review No.57, pp. 67-81.	小学校外国語活動の目標には、日本語と外国語との音声の違い等に気付くこと、外国語の目標には外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気付くことが含まれている。また、文部科学省の「中学年を対象とした、絵本活用に関する基本的な考え方」では、ことばに対する興味を高め、母語を利用してことばの仕組みや働きに気づかせることが必要であると述べられている。本研究では、英語で書かれた15冊の絵本を言語の仕組み、働き、意味の観点から分析し、小学校の外国語活動や外国語科の授業で、日本語と英語の共通点や相違点への気づきを促すための発問や活動を提案した。
15.Pedagogical innovation and materials development in English education: Applying CLIL for postgraduate engineering students （査読付）	共	2019年8月	Stress Brain and Behavior Regional "Stress and Behavior" ISBS（International Stress and Behavior Society) Conference Vol. 1, pp. 28-35.	Takashi Uemura, Mayumi Tanaka, Katsumi Ichimura, Naritoshi Aoyagi, Makoto Ikeda 概要：海外勤務経験のある日本人エンジニアのインタビュー内容から構築したものづくりにおける英語コミュニケーションモデルと工業高等専門学校でのものづくりと英語の学習を統合させた内容言語統合型学習（CLIL)の実践を基に、2018年度から4年間に渡って行う、工学専攻の大学院生を対象としたCLILの指導法と教材の開発について論じた。（田中担当：pp. 30-32）
16.小学校における絵本を活用したことばの教育のためのシラバス作成（査読付）	共	2019年1月	中部地区英語教育学会研究紀要第48号，pp.189-196.	田中真由美・中村伸哉　概要：研究開発学校である小学校の１～３学年で新設された国語と外国語活動を融合させた領域「ことば」において、絵本を教材として活用した授業のシラバスとその作成のために行った授業実践を報告した。（田中担当：pp. 189-196）
17.絵本を活用した外国語活動を通して豊か	共	2018年1月	中部地区英語教育学会紀要第47号,	田中真由美・小野奈々子　概要：小学校の外国語活動における英語の絵本の読み聞かせを通して、児童が日本語と英語の両言語に共通

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
になっていくことば（査読付）			pp. 237-244.	することばの仕組みや働きに気付く過程を探究した。読み聞かせによって、絵本で使用される表現や教師による問いを能動的に聞いて、繰り返したり、つぶやいたりしながら新しい表現を自分の中に取り込んだ上で、自らの言語経験と照らし合わせながら日本語と英語の共通点や相違点を見出す児童たちの姿が見られた。（田中担当：pp. 237-244）
18.中学校英語科CAN-DOリストのモデル作成―長野県教育委員会と連携して―	共	2017年3月	信州大学教育学部研究論集第10号, pp. 37-47.	田中真由美・酒井英樹　概要：長野県教育委員会のCAN-DO リスト作成委員会のメンバーとして、長野県中学校 CAN-DO リストのモデルを作成した。本稿は作成したモデルとその作成過程についての報告である。教育実践を踏まえたモデルになるよう、これまで行ってきた言語活動実践を振り返った後、学習到達目標を1学年から3学年の順で決め、最終的に3年間の学習到達目標を設定するというボトムアップ方式で作成した。（田中担当：pp. 37-47）
19.小学校外国語活動におけるCAN-DOリストに基づく単元と評価（査読付）	共	2017年1月	中部地区英語教育学会紀要46号, pp. 201-208.	田中真由美・中村伸哉　概要：外国語活動CAN-DOリストに準拠した単元設定とパフォーマンス評価、児童の授業の振り返りと自己評価の結果を報告し、学習到達目標及び単元、指導と評価の在り方が適切であったかについて考察した。スピーキングの課題を児童のほとんどが達成できたため、目標設定と目標達成に向けた活動は適切であったが、児童の問いや興味に柔軟に対応した単元や授業を展開する点については課題が残った。（田中担当：pp. 201-208）
20.内容言語統合型学習による工学英語教育の実践と今後の課題（査読付）	共	2016年11月	工学教育第64巻第6号（公益社団法人日本工学教育協会）, pp. 56-62.	青柳成俊・田中真由美・池田真　概要：高等専門学校機械工学科の5年生を対象とした科学技術英語の授業で、内容言語統合型学習（CLIL）に基づく活動を行った。授業と自己評価アンケートの結果から、学生は内容と言語を統合させた授業の有効性を実感したものの、内容指導に偏らない言語面の指導上の工夫が必要であることが明らかになった。（田中担当：プロジェクト全体への協力・助言、文章校正）
21.英語の授業で文化を扱う際の問題点と可能性（査読付）	単	2015年1月	中部地区英語教育学会紀要44号, pp.175-182.	日本の英語教育における文化の扱いを英語教員がどのように捉えているかについてインタビューを行った。その結果、教師の文化に関する知識の量に偏りがあること、教科書で扱われる地域の表象に対して学習者の批判的な視点が養えるよう異なる考えを持った者同士が意見を交換する必要があること、意見交換の場面では日本語の使用が多くなることなどの問題点があることがわかった。
22.英語教育における辞書の活用―新学習指導要領に対応して―（査読付）	共	2014年12月	教育実践研究第15号（信州大学教育学部附属教育実践総合センター）, pp. 1-17.	髙橋渉・酒井英樹・田中江扶・金子史彦・田中真由美、他4名　概要：英和・和英辞書の活用に関する英語教育学・英語学の観点からの理論的研究と、中学生と大学生対象の辞書使用のアンケート調査、教育学部附属中学校での辞書指導実践を踏まえ、学習指導要領に対応した中学校の英語授業における辞書指導の在り方を検討した。（田中担当：pp. 2-3の2.1、pp.9-10の5.1, 5.2）
23.新課程版高校検定教科書における英検Can-doリストと関連のあるタスク	共	2014年11月	EIKEN BULLETIN第26号（公益財団法人日本英語検定協会）, pp. 191-205.	田中真由美・大森理聡　概要：新課程版の高校英語検定教科書内に見られる自己表現タスクと英検のCAN-DOリストの能力記述文の関係性を調査したところ、ほとんどのタスクが英検CAN-DOリストと対応することがわかった。また教師へのインタビューから、教師が生徒の興味や英語力に応じてタスクを修正し、パフォーマンスの評価基準も生徒の英語力などに応じて独自に作成していることがわかった。（田中担当：pp.191-205）
24.高専生の英語力向上のための長期的取り組み―自律的な英語学習者の育成を目指して―（査読付）	単	2014年3月	高専教育第37号（独立行政法人国立高等専門学校機構）, pp. 219-224.	高専生の英語力を向上させるための4年間に渡る実践とその成果の報告である。学生が自律的に英語学習に取り組むための様々な課外学習プログラムを実施した。主な取り組みは英語多読と英検、TOEIC Bridge IP、TOEIC IPなどの外部英語試験の実施である。その結果、毎年4年次に行っているTOEIC IPの平均スコアが過去最高となった。アンケートで約半数の学生がTOEIC IPの実施と普段の英語の授業が英語学習に役立ったと答えた。
25.Symposium on ELT coursebooks: Past, present and possible （査読付）	共	2013年1月	IATEFL 2012 Glasgow Conference Selections (International Association of	Richard Smith, John Gray, Diana Freeman, Alice Wanjira, Mayumi Tanaka, Dario Banegas IATEFLの国際会議で行われた英語教材の過去・現在・未来に関するシンポジウムの発表内容が論文として掲載されたものである。英語教材の歴史、設問やタスクの種類の分析、新自由主義的観点からの教材分析、教材開発と消費に関する研究、市販の教材と教師が作成

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
			Teachers of English as a Foreign Language), pp. 74-77.	した教材の組み合わせに関する研究を報告した。（田中担当：p. 76）
26.長岡高専におけるマークシート採点システムの開発（査読付）	共	2012年3月	全国高等専門学校英語教育学会研究論集第31号, pp. 51-60.	土田泰子・自見壽史・占部昌蔵・大湊佳宏・田中真由美　概要：英語科の定期テストにおけるマークシート採点システム開発研究として、マークシート方式の活用事例、マークシート方式テストに関する学生への意識調査の結果をまとめた。マークシート形式テストはTOEIC受験に有効であるが記述式の設問も必要だと学生が考えていることがわかった。（田中担当：pp.52-56のマークシート活用事例、文章校正）
27.長岡高専学生海外派遣の成果－期待していた成果と予想外の成果－（査読付）	共	2011年3月	全国高等専門学校英語教育学会研究論集第30号, pp. 103-110.	占部昌蔵・大湊佳宏・田中真由美　概要：オーストラリアへの学生派遣研修の成果を検証した。英語によるインタビューの分析で、学生の話す力において流暢さの伸長がみられた。その他の成果として、英語学習意欲の向上や人間的な成長に関わるコメントが日本語でのインタビューや作文から確認され、短期間であっても海外派遣研修は学生にとって得るものが多いプログラムであることがわかった。（本人担当：結果、考察、まとめの助言・校正）
28.発信力中心型第2シラバスの作成とパフォーマンスのデジタル化～スピーキング能力を伸ばすためのICT活用実践～	共	2011年3月	コミュニカティブ・ティーチング研究会紀要第14号, pp.3-44.	阿部雅也・荒木美恵子・佐藤郁美・高橋美和・田中真由美・松井市子　概要：「生徒にどのような力をつけさせたいか」という明確な目標と評価規準を作成し、教科書に合わせてタスクを時系列にまとめ「アウトプット中心第2シラバス」とした。ICTを活用して生徒のパフォーマンスを撮影し、タスクの評価基準や授業ハンドアウトなどの活用ファイル集とともに「活用事例集」として各校の実践をDVDにパッケージングした。（田中担当：pp.23-26、全体の編集・校正）
29.長岡高専における国際交流推進活動―五感で伸ばす国際性と英語力―	共	2011年3月	長岡工業高等専門学校紀要第47巻, pp.1-6.	田中真由美・青柳成俊　概要：「アジア高等教育機関との交流および地域連携による人材育成」プロジェクトで行った学生の国際性と英語力を伸ばすための取組みの報告と考察を行った。英語多読・多聴、英語エッセーコンテスト、英語スピーチコンテスト、国際関係学演習、国際理解ワークショップ、異文化コミュニケーション講演会、オーストラリア研修を実施した。（田中担当：pp.1-6＜第1節除く＞）
30.海外派遣研修（オーストラリア）に参加した学生の英語スピーチ分析	共	2010年11月	長岡工業高等専門学校紀要第46巻, pp.1-5.	大湊佳宏・占部昌蔵・田中真由美　概要：英語の語学研修として行われたオーストラリア研修に参加した高等専門学校の学生の英語によるスピーチを研修の前後で比較した。流暢さと正確さの観点から分析したところ、流暢さの伸長は見られたが、正確さに変化は見られなかった。（田中担当：pp.3-5の結果と考察の助言・校正）
31.英語多読を通じた地域貢献活動	共	2010年11月	長岡工業高等専門学校紀要第46巻, pp.71-76.	田中真由美・土田泰子・大湊佳宏・自見壽史・占部昌蔵　概要：学生の英語力向上のために導入した英語多読用の図書が約6千冊にまで増えたことから、学生だけでなく、より幅広い学習者を対象とした様々な地域貢献活動を行った。市民大学での多読講座、国際交流センターへの多読図書の長期貸し出しや中学生への多読図書の紹介等の実践を行ったところ、長岡高専の学生以外の地域住民にとっても多読は興味深いものであり、学習の意欲を高めるものであることが示唆された。（田中担当：pp. 71-76 ＜第3節除く＞）
32.Critical discourse analysis of a government approved textbook: Aiming for its application to English language teaching	単	2010年10月	Proceedings of JASFL, Vol.4（日本機能言語学会）, pp.29-39.	日本の高校英語検定教科書の批判的談話分析を行った。日本の食品に関するテクストの分析から，日本で開発された商品の海外進出が日本人の目線で肯定的に記述されていることや、アメリカとの関係の中でビジネスのグローバル化が示唆されていることが明らかにした。また、テクストの分析方法として批判的談話分析を用いることや批判的談話分析を英語教育実践に応用する際の問題点についても言及した。
33.フィードバックが高校生のライティングにおける文法的正確さとモチベーション	共	2010年1月	中部地区英語教育学会紀要第39号, pp.155-160.	田中真由美・松井市子　概要：高校の英語のライティングの時間ではすぐに長い文章を書かせるのではなく、最初は文法項目の復習と定着を兼ねた練習問題やタスクに時間がかけられることが多いことを踏まえ、特定の文法項目を扱ったライティング・タスクに焦点を

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
に与える影響（査読付）				当て、フィードバックが文法的正確さに与える影響とフィードバックの違いが生徒のモチベーションに与える影響を考察した。（田中担当：pp.155-157、文章校正）
34.長岡高専における英語多読実践プロジェクト（その1）	共	2009年11月	長岡工業高等専門学校紀要第45巻第2号，pp.19-24.	田中真由美・大湊佳宏・土田泰子　概要：自律的英文多読活動実践プロジェクトを立ち上げた。開始当初購入した英語学習者向け段階別読み物や英語絵本を総単語数などを基準に読みやすさ別に分けたり、読書記録として読んだ本の単語数や短い感想を記録させるなどすることで、学生が自分の英語力に合った本を自由に選び、読んだ本の情報を管理させる活動を行った。（田中担当：pp.19-24）
35.ペア・プランニングが自由英作文に与える影響－Coh-Metrixを用いたテクスト分析－	共	2009年11月	STEP Bulletin, Vol.21（財団法人日本英語検定協会），pp.174-180.	田中真由美・大湊佳宏・阿部聡　概要：英語ライティングの学習におけるペア・プランニングが個人プランニング、オンライン・プランニングと比較して有意に効果的であるかについて実験研究を行った。流暢さ、複雑さ、正確さ、結束性の観点で分析したところ、個人プランニングとペアプランニングは流暢さにおいて同様の効果があることが示唆された。（田中担当：pp. 174-180）
36.ESL/EFL リーディング教科書の批判的談話分析	共	2009年10月	Proceedings of JASFL, Vol.3（日本機能言語学会）,pp.15-24.	阿部聡・田中真由美　概要：選択体系機能言語学を援用してESL及びEFLリーディング教材の批判的談話分析を行い、テクストに内在する西欧的価値観を明らかにした。教育的示唆として、このようなテクストを授業で利用することが特定の価値観の再生産につながることを指摘した。（田中担当：研究計画の立案、分析テクストの選定、文章校正）
37.批判的談話分析のクリティカル・リーディングへの応用（査読付）	共	2009年1月	中部地区英語教育学会紀要第38号，pp.23-30.	田中真由美・阿部聡　概要：マオリ族に関する英語リーディング用テクストの批判的談話分析を行った。その結果、テクストがマオリ族の伝統存続の重要さに焦点を当てている一方で、侵略行為の責任の所在を曖昧にし、先住民であるにもかかわらずマオリ族を依然としてマイノリティーであると社会的に位置づけようとしていることを明らかにした。この結果に基き、クリティカル・リーディングの一連の発問作成して学習者に与えたところ、学習者同士だけでなく教師と学習者間で意見を交わすことでより批判的な解釈を引き出すことができた。（田中担当：pp.23-30）
38.プランニングがライティングのタスク・パフォーマンスにおける流暢さと複雑さに与える影響	単	2008年3月	長岡工業高等専門学校研究紀要第44巻第1号，pp.9-16.	79名の日本人英語学習者に5分間の自由英作文の課題を与えた後、学習者を個人プランニング群とペアプランニング群に分けた。その後、最初に行った課題と同じ課題に取り組ませ、産出した英文の流暢さと複雑さの違いを検証した。両群とも1回目よりも2回目の自由英作文の方が流暢で複雑な英文を産出した。群間で比較したところ、個人プランニング群の学習者の方がペアプランニング群よりも流暢な英語を産出したが、複雑さに関しては有意な差は見られなかった。
39.A critical discourse analysis of reading texts in a Japanese high school textbook	単	2007年12月	英文学会誌第30号（新潟大学英文学会），pp.121-136.	ハリデーの機能文法を援用した批判的談話分析を用いて、高等学校英語教科書のテクスト分析を行った。アメリカ人学生と日本人学生の対話を分析したところ、アメリカ白人文化の優越性と日本のナショナリズムという相反する価値観を内包した「国際化」のイデオロギーが見られた。
40.A critical discourse analysis of reading texts: Evidence from a Japanese senior high school textbook	単	2007年9月	コミュニカティブ・ティーチング研究会紀要第12号，pp.5-22.	高校英語検定教科書に掲載されたイスラム教徒の女性に関するテクストの批判的談話分析を行った。その結果イスラム教文化に関するステレオタイプを引き起こす可能性のある記述を明らかにした。バイラムの文化間コミュニケーション能力と批判教育学の理論や方法論を背景に、学習者が批判的にテクストを読み、解釈するための指導法が必要であることを述べた。
その他				
1．学会ゲストスピーカー				
1.ものづくりCLIL英語教材開発の道程と教育実践検証	共	2024年2月	日本CLIL教育学会東北支部特別ウェブセミナー「CLILを活用した新時代の工学系高等教育機関での英語教育を考える」（オン	講演者：植村隆・田中真由美（共同研究者：青柳成俊・市村勝己・池田真）概要：技術者との協働および工学の専門教員を含む特徴的な学際研究チーム連携を通じて完成したCLIL活用型実学的英語教材開発の道程（技術者へのインタビュー、実務ダイアログ、ロールプレイによる映像教材、予復習用教材、自己評価用ルーブリックの開発等）を報告した。また、本教材を使用し、半期15回の工学系大学院生向け英語授業で実施した事前・事後スピーキング課題のパ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
１．学会ゲストスピーカー				
			ライン）	フォーマンス評価と半構造化インタビューを通じた受講生授業評価の結果を報告した。
2.批判的応用言語学に基づくクリティカル・リーディング研究－英語教科書や英語絵本を用いたリーディング指導法の開発－	単	2022年11月	2022年度武庫川女子大学大学院文学研究科英語英米文学専攻講演会（於　武庫川女子大学中央キャンパス）	批判的応用言語学に基づく英語のクリティカル・リーディングの指導法開発に関する講演を行った。批判的談話分析を援用したテクスト分析の方法と、クリティカル・リーディングのための読解や発問の枠組みに関する説明及び中学校、高等学校、子供の向け英語絵本を用いた発問について説明した。また、今後の展望として、英語教育における英語文学テクストを用いたクリティカル・リーディング研究を提案した。
3.生徒同士による主体的な読みを促すリーディング指導のあり方～発問に焦点を当てて～	単	2016年8月	長野上水内中学校英語科教科会・ 長水中学校英語科教科会（於　長野市立若穂中学校）	現職中学校英語教員を対象とした講演会で中・高等学校の英語リーディングの授業をアクティブ・ラーニング型にするための発問やグループでの活動の方法を提案した。
4.クリティカル・リーディング―グローバル化に対応した英語教育に向けて―	単	2015年10月	長野県英語教育研修会全県研究大会講演会（於　長野県木曽町立開田中学校）	現職中学校英語教員を対象とした講演会でグローバル化に対応した英語教育に向けてどのような実践が可能かについて、次期学習指導要領の柱となる新しい学力観とクリティカル・リーディングの関係を論じた。また、クリティカル・リーディングの理論的背景と併せて、発問という観点から具体的な中学校での指導法についても紹介した。
5.クリティカル・リーディングの指導法―文化に対する多様な視点を養うために―	単	2013年12月	中部地区英語教育学会・長野地区2013年度第３回研究会講演（於　信州大学教育学部）	英語教育における文化の取り扱いとクリティカル・リーディングの関係について説明し、高校英語検定教科書を使用したクリティカル・リーディングの実践について発表した。講演の最後に、参加者と共に中学校英語検定教科書を使用してクリティカル・リーディングのための発問を作る活動も行った。
２．学会発表				
1.CLILを活用した工学系英語教育に関する研究成果の社会還元－SSH指定校での実践－	単	2025年2月	第９回研究成果の社会還元促進に関する発表会（於武庫川女子大学）	概要：兵庫県内の2校のSSH指定校で行ったSTEAM特別講座と科学英語プレゼンテーション指導の概要と成果を発表した。『第９回 武庫川女子大学研究成果の社会還元促進に関する発表会報告集』， pp. 5-11
2.Developing English Presentation and Speaking Skills in an International and Academic Context	共	2025年2月	21st Annual CamTESOL Conference, Institute of Technology Cambodia, Phnom Penh, Cambodia	Christopher Edelman, Anita Aden, Mayumi Tanaka 概要：大学の教職員、大学院生を対象とした英語スキルアップ研修において事前事後のスピーキングタスクとアンケート調査を行い、スピーキングのパフォーマンスと英語使用に関する自己効力感の変化を分析した。
3.Assessing Postgraduate Students' Engineering Content Learning Outcomes and Associated Linguistic Competencies Through CLIL-Based Instruction	共	2024年11月	22nd AsisaTEFL International Conference 2024, Chiang Rai Rajabhat University, Chang Rai, Thailand	Takashi Uemura, Mayumi Tanaka 概要：本研究は、CLILの原則に基づく英語授業を通して、日本人および留学生の大学院生（修士課程）が工学に関する内容と言語スキルをどのように身につけたかを調査した。学生は製品課題に関するプレゼンテーションと、ビジネスミーティングを想定したスピーキングタスクに取り組んだ。結果、発表では製品の強みを説明できる学生が多く、スピーキングタスクでは適切な表現を使い、具体的なデータを交えた説明ができる傾向が見られた。
4.大学英語教育における文学作品の活用―調査方法と教材化の検討―	単	2024年6月	中部地区英語教育学会第53回富山大会（於　富山大学五福キャンパス）	英語文学作品を用いたクリティカル・リーディングに関する共同研究の取り組みとして行った「英語教育における文学作品活用の現状調査」、「文学作品を用いたリーディング教材・シラバス・指導マニュアルの作成」に関する報告を行い、文学作品活用についての今後の調査方法や教材化に関する課題について議論した。
5.ものづくりの学習と英語の学習を統合した内容言語統合型学習（CLIL）	単	2024年2月	第８回 研究成果の社会還元促進に関する発表会（於武庫川女子大学）	概要：小学生や工学系の学生を対象としたものづくりの学習と英語の学習を統合した内容言語統合型学習（CLIL）のイベントや授業実践を報告し、理工系のCLILの実践や研究に関する今後の展望を述べた。
6.母語の異なる英語使	共	2024年2月	第12回異分野交流	田中真由美・盛田有貴・管楓花　概要：本研究では、母語が異なる

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
用者のポライトネス・ストラテジー比較			会（於　神戸松蔭女子学院大学）	英語使用者を対象に、自分に関する肯定的評価と否定的評価の表明への応答を記述する談話完成テスト（discourse completion test: DCT）と応答理由に関するアンケートを実施し、それらから得たデータをポライトネス・ストラテジーの観点から分析し、英語教育への示唆を述べた。
7.英語学習のためのAIツール使用に関するアンケート調査 ―自己、他者、AIとの対話による 英語リテラシー教育プログラムの実施に向けて―	共	2023年8月	全国英語教育学会第48回香川研究大会（於 香川大学教育学部）	田中真由美・佐々木顕彦・川西慧・Kevin Bartlett　概要：学生がAIツールを活用して英語学習を効果的に行うためにどのような指導が必要かを検討するために、英語専攻の大学３、４年生（約100名）にアンケート調査を行った。AIツールの使用態度や使用上の留意点に関する項目の回答から、AI使用を肯定するだけでなく、罪悪感や信頼性への疑念などの否定的な態度や、AIは「個人」で制御し活用するものと考えている実態、急速に普及・進化するAIとの関わり方に悩む姿がうかがえた。英語学習において他者と協働しながら批判的意識を持ってAIを活用できるよう、「自己、他者、AIとの対話による英語リテラシー教育プログラム」を提案した。
8.高等教育機関及び企業における内容言語統合型学習（CLIL）を取り入れた英語教育：他学科教員や民間企業従事者との連携を通して	共	2023年2月	関西圏女子大学連携プロジェクト・第11回異分野交流会（於　奈良女子大学）	田中真由美・辻和成　概要：工学専門教員及び学生、民間企業のエンジニアと連携し、国際業務のコミュニケーションで日本人エンジニアが必要とする英語力をモデル化し、さらに実用的な場面に即したオーセンティックな英語教材を作成した。工学専門教員やエンジニアとの連携、作成した英語教材、企業との連携について報告した。
9.教員養成、採用、研修の一体化	単	2022年12月	武庫川女子大学・学校教育センター教師教育研究部門・第２セクター研究会（於　武庫川女子大学学校教育館）	女子大学における教員養成、採用、研修の一体化のための取り組みについて、現職教員との共同研究と高校での勤務経験を基に議論した。取り組みの例として、教員研修では教師が各自の実践や教育観などについて語り合うことで学び合い、大学の教職課程ではゲストスピーカーとして現職教員に経験や考えを語ってもらうなど、教師の語り（ナラティブ）を取り入れることを提案した。
10.日本人英語教師のアイデンティティー語りの short story 分析―	共	2022年8月	全国英語教育学会第47回北海道大会（オンライン開催）	田中真由美・山田雄司・根岸加奈　概要：教師教育や教師の成長において外国語教師のアイデンティティに関する研究が近年注目されていることを踏まえ、教師が教師としてのアイデンティティを見出したり、再認識したりすることで、自らの教育実践の理解や見直しが可能になると考え、英語教師のアイデンティティに関する共同研究を行った。共同研究者２名が約１年間、数回に渡って英語教師としての経験や考えに関して語った内容を、主に研究代表者が分析した。分析にはBarkhuizen (2016)による短い物語（short story）分析のアプローチを採用し、３つのコンテクストレベル（story、Story、STORY）と３つの内容的側面（who, where, when）から分析した結果と教師のアイデンティティ研究が教師の成長に与える影響について考察した。
11.CLIL-based pedagogical design and materials development for a Japanese postgraduate engineering course : Innovating English education with engineers through a four-year collaborative project	共	2022年7月	WORLD CLIL 2022（於 Leiden University in The Hague, the Netherlands, 現地及びオンライン開催）	Takashi Uemura, Mayumi Tanaka, Katsumi Ichimura, Naritoshi Aoyagi, Makoto Ikeda　概要：内容言語統合学習（CLIL）に基づく工学系大学院生向けのものづくり英語コースの教材開発と授業実践の成果報告を行った。本プロジェクトはマレーシアのエンジニアとの協働による実用的な教材の開発と、田中ら（2017）による「ものづくり英語コミュニケーションモデル」によって、エンジニアにとって必要な英語と内容の新しい教育方法の確立を目指したものである。コース終了後の半構造化インタビューのテーマ分析から、教材のコンテンツによって、エンジニアのビジネスシーンが可視化され、学生の海外勤務への意欲が高まったことが示唆された。また、発話タスクの前後の比較データから、ビジネスコミュニケーションに適した表現の使用率が向上したことが明らかになった。
12.ビジネス英語教育モデルの実用的体系化―日本企業の国際事業展開からの考察―	共	2021年7月	JACET関西 ESP研究会（オンライン開催）	辻和成・宇佐美彰規・田中真由美　概要：「企業の経済活動を基軸としたオーセンティックな体系的ビジネス英語教育の基盤研究」（基盤研究（C）課題番号 21K00722）の背景、概要、進捗状況を報告した。研究代表者(辻)と研究分担者（田中、宇佐美）の研究と実

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				務（ビジネス、教育）から得た知見を発展させ、国際事業に焦点を当て、ものづくり企業を対象とした調査（アンケート、インタビュー）と会議データの分析を通して、ビジネス英語教育モデルの試作と実践・評価を目指す。
13. Teaching situationally appropriate expressions for manufacturing: Engineering students' evaluation of CLIL-based instruction in a Postgraduate Course	共	2021年6月	Integrating Content and Language in Higher Education (ICLHE) East Asia Symposium 2021（オンライン開催）	Takashi Uemura, Mayumi Tanaka, Katsumi Ichimura, Naritoshi Aoyagi, Makoto Ikeda 概要：工学系大学院の日本人学生及び留学生を対象に、開発した教材を使用して英語とものづくりの内容を統合させたCLILのコースを15週間行った。受講者たちが本コースをどのように評価したかを明らかにするために、ルーブリックを用いた自己評価シートとコース終了後に行った半構造化インタビューから得られたデータを分析した。その結果、製品の特長等について量的及び質的に説明する方法をプレゼンテーション等の練習を通して学ぶことで、英語で適切かつ正確に伝達する力を身に付けられたという回答が得られた一方で、ものづくりにおけるやり取りの場面例の教材を増やす必要があることが今後の課題として明らかになった。
14. Increasing primary school students' critical language and cultural awareness through storytelling in the EFL classroom	単	2021年2月	The 17th Annual CamTESOL Virtual Conference on English Language Teaching （オンライン開催）	言語と文化に対する批判的意識を高めることを目的とした英語の指導に関する研究の一環として、日本の小学校４年生を対象とした絵本を用いた外国語活動の実践研究を行った。本実践では絵本の読み聞かせを行い、その後、絵本で用いられている英語の音声や言語の機能に注目して、英語と日本語との類似点や相違点について話し合う活動を行った。授業後のアンケートの回答から、英語に対する興味の高まりや両言語の学習に対する意欲が見られた。今回は言語に焦点をあてた授業であったが、今後はそれ以外の文化的側面に関する批判的意識を高める授業実践の研究を行うことが課題である。
15. 技術者からの調査データに基づく英語教材の開発－CLIL活用型ものづくり教材開発の実践報告－	共	2020年9月	公益社団法人日本工学教育協会2020年度工学教育研究講演会（オンライン開催）	市村勝己・植村隆・青柳成俊・田中真由美・池田真　研究の主な目的は、田中ら(2017)が構築した、技術者にとって必要な英語力である４段階の「ものづくりの英語表現力」を活用し、工学系大学院生対象のものづくり英語教育シラバス設計、教材開発、効果検証を行い、論理的で的確な伝達力を育成する工学系英語教育手法の確立を目指す事にある。本発表では、この中の教材開発の取組として、①本教材開発の核となる部分である４段階の各レベルにおける技術者との協働によるダイアログ作成及び当該ダイアログを使用したロールプレイの映像教材の作成、②企業の製造現場での映像収録による映像教材作成及ぴ文字起こしと標準英語化によるダイアログ作成、③当該ダイアログに基づく予習教材の開発、④開発した教材を用いた授業実践とその後のアンケート調査の結果を考察した。
16. 工学系大学院におけるCLILを活用した「ものづくり」英語教育の実践：エンジニアとの協働による教材作成から指導法開発に向けて	共	2020年2月	日本CLIL教育学会第18回例会（於 早稲田大学戸山キャンパス）	植村隆・田中真由美・市村勝己・青柳成俊・池田真　山口大学大学院創成科学研究科（工学系）博士前期課程学生対象の ①ものづくり系英語教育をテーマとしたCLIL授業実践（企業の調達部門と設計部門による品質問題対応）②エンジニアとの協働による教材開発と開発ダイアログの文法・機能からの言語分析 ③教育効果の検証（事前・事後アンケート、ルーブリック、自由記述、インタビュー）を行った。
17. ことばへの気づきを促す絵本の読み聞かせ―シラバスの作成と検証―	共	2019年7月	第19回小学校英語教育学会北海道大会（於　北海道科学大学）	田中真由美・中村伸哉・上條大樹　概要：研究開発学校である小学校の１～３学年で新設された国語と外国語活動を融合させた領域「ことば」において、絵本を教材として活用したことばへの気づきを促す授業のシラバスを作成し、教材、指導内容、内容の配列が適切であったかを検証した。
18. Pedagogical innovation and materials development in English education: Applying CLIL for postgraduate engineering students	共	2018年9月	15th International Regional (Asia) ISBS Neuroscience and Biological Psychiatry "Stress and Behavior" Conference (Yamaguchi	Takashi Uemura, Mayumi Tanaka, Katsumi Ichimura, Naritoshi Aoyagi, Makoto Ikeda 概要：山口大学大学院創成科学研究科におけるCPOT (Center for Post Graduate Skill Training) は専攻横断型学生小グループによる課題解決型実践教育を通じて、国際的に活躍できる高度専門職業人を育成することを目的としている。本発表ではCPOTにおける英語のスキル学習と課題解決学習を統合させた指導法及び教材の開発の必要性を論じた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
			University, Tokiwa Campus, Ube, Japan)	
19.A new approach of CLIL for mechanical engineering course	共	2018年9月	15th International Regional (Asia) ISBS Neuroscience and Biological Psychiatry “Stress and Behavior” Conference (Yamaguchi University, Tokiwa Campus, Ube, Japan)	Katsumi Ichimura, Naritoshi Aoyagi,Mayumi Tanaka , Makoto Ikeda, Takashi Uemura 概要：工業高等専門学校機械工学科における英語学習とものづくりの学習を統合させた内容言語統合型学習（CLIL）の実践を報告した。
20.Developing Content and Language Integrated Learning (CLIL) for manufacturing education	共	2018年9月	15th International Regional (Asia) ISBS Neuroscience and Biological Psychiatry “Stress and Behavior” Conference (Yamaguchi University, Tokiwa Campus, Ube, Japan)	Mayumi Tanaka, Makoto Ikeda, Naritoshi Aoyagi 概要：工学専攻の学生を対象とした内容言語統合型学習の指導法開発のための知見を得るために、海外のエンジニアと共に働いた経験のある日本人エンジニアにインタビューを行った。発話内容の分析結果を基に、ものづくりにおける英語のコミュニケーションのモデルを構築した。
21.小学校における絵本を活用したことばの教育のためのシラバス作成	共	2018年6月	第48回中部地区英語教育学会静岡研究大会（於　静岡大学）	田中真由美・中村伸哉　概要：研究開発学校である小学校の１～３学年で新設された国語と外国語活動を融合させた領域「ことば」において、絵本を教材として活用した授業のシラバスとその作成のために行った授業実践を報告した。
22.ものづくり英語コミュニケーション教育モデルの構築	共	2017年7月	日本CLIL教育学会 CLIL SEMINAR 2017（於　早稲田大学早稲田キャンパス）	田中真由美・青柳成俊・池田真　概要：高専における CLIL に基づいた「ものづくり英語コミュニケーション教育モデル」を開発するために行った海外の工学教育視察、エンジニアへのインタビュー、科学技術英語の授業実践について報告した。
23.絵本を活用した外国語活動を通して豊かになっていくことば	共	2017年6月	第47回中部地区英語教育学会・長野大会（於　信州大学教育学部）	田中真由美・小野奈々子　概要：児童のどのような姿からことばが豊かになると言えるのかを４年生の外国語活動における絵本の読み聞かせ実践を基に考察した。
24.スペイン工学教育の視察報告―ものづくり英語コミュニケーション教育モデル構築に向けて―	共	2016年9月	第22回日英・英語教育学会研究大会（於　聖徳大学松戸キャンパス）	田中真由美・青柳成俊　概要：スペインの大学で行われている英語による工学の授業観察と担当教員へのインタビューから、ものづくりに必要な英語コミュニケーション能力を育成する工学英語教育の在り方を考察した。
25.高専の機械工学製作実習を題材にしたCLILによる科学技術英語教育の実践	共	2016年9月	公益社団法人日本工学教育協会平成28年度工学教育研究講演会（於　大阪大学吹田キャンパス）	青柳成俊・田中真由美・池田真・市村勝己 概要：工業高専機械工学科の5年生を対象に３年次に体験した機械工学製作実習を題材としてCLILに基づいた科学技術英語の授業を実施した。
26.教科横断型リテラシー教育モデル開発に向けての一考察：英語教育におけるク	単	2016年8月	第60回日本読書学会大会（於　文京区、林野会館）	英語教育におけるクリティカル・リーディングの枠組み構築の実践研究から、国語教育、日本語教育、英語教育、道徳教育の４分野にまたがる教科横断型リテラシー教育モデル開発の在り方を考察した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
リティカル・リーディングの枠組み構築から見えてくるもの				
27.アクション・リサーチによるクリティカル・リーディングのための枠組み構築	単	2016年8月	全国英語教育学会第42回埼玉研究大会（於　獨協大学）	批判的談話分析と批判教育学を理論的背景としたクリティカル・リーディングにおける「批判性」について議論し、アクション・リサーチによる枠組み構築のプロセス、具体的な発問と生徒の答えの例を提示した。
28.外国語活動の時間数と児童の英語力、自己評価、態度の変容	共	2016年7月	第16回小学校英語教育学会宮城大会（於　宮城教育大学）	酒井英樹・岩田伊玄・田中真由美・和田順一　概要：外国語活動の時間数が異なる２つの小学校における児童の英語力、自己評価、態度の変容の違いについて分析した。
29.小学校外国語活動におけるCAN-DOリストに基づく単元と評価	共	2016年6月	第46回中部地区英語教育学会三重大会（於　鈴鹿医療科学大学）	田中真由美・中村伸哉　概要：外国語活動のCAN-DOリストに基づいた評価基準を用いてスピーキングのパフォーマンス評価を行い、児童の自己評価や教師の評価結果から目標設定、指導、評価の在り方が適切であったかを考察した。
30.Personal and interpersonal impacts on the process, outcomes, and presentation on appropriate pedagogy for critical reading	単	2015年9月	British Association for Applied Linguistics Annual Meeting 2015 (Aston University, UK)	クリティカル・リーディングに関する協働的なアクション・リサーチを行った際に起こった様々な問題とそれが研究の結果や論文等における提示の方法に影響を与えたことについて発表した。
31.共創型防災教育モデルにおける英語科での防災授業実践	単	2015年8月	関東甲信越英語教育学会第39回山梨研究大会（於　帝京科学大学）	高専１年生を対象に行った英語教育と防災教育を統合させた内容言語統合型学習（Content and Language Integrated Learning: CLIL)の授業実践について報告した。
32.児童を対象にした英語力に関する自己評価の検討―CAN-DOリストの形の学習到達目標のために―	共	2015年8月	第41回全国英語教育学会熊本研究大会（於　熊本学園大学）	和田順一・石島恵太郎・酒井英樹・田中真由美　概要：児童を対象にした英語コミュニケーションのCAN-DOリスト作成のための示唆を得ることを目的に、公立小学校2校の児童に自己評価アンケートと児童英検学校版ブロンズを実施し、各学年のCAN-DOリストの項目に問題はないか、自己評価が児童の英語能力を適切に反映しているかについて検証した。
33.リフレクティブな英語教師の語りに見られる様々な「私」	単	2015年8月	第41回全国英語教育学会熊本研究大会（於　熊本学園大学）	探究的実践のような省察的な教師の語りの中には実践研究の前、最中、後において異なる「私」がいること、自らの実践を理解する実践者としての「私」が自伝やライフヒストリーなどに見られる「私」とどのように異なるのかについて考察した。
34.長野県坂城町における外国語活動の改善の取り組み	共	2015年7月	第15回小学校英語教育学会広島大会（於　広島大学）	酒井英樹・神津寿美子・中村孝子・田中真由美　概要：長野県坂城町内３校の小学校のうち２校の児童180名を対象に実施した外国語学習の自己評価アンケート調査と児童英検学校版ブロンズの結果を報告した。
35.英語コミュニケーション能力に関する児童の自己評価分析―指導と評価における小中連携のための学習到達目標作成に向けて―	共	2015年7月	第15回小学校英語教育学会広島大会（於　広島大学）	田中真由美・中村伸哉　概要：教育学部附属小学校と中学校の児童・生徒自己評価アンケートを実施し、ラッシュ分析結果と通過率を基に小学校2年生～6年生までの外国語活動CAN-DOリストを作成した。
36.長野県中学校CAN-DOリスト（平成26年度モデル）の作成	共	2015年6月	中部地区英語教育学会第45回和歌山大会（於　和歌山大学）	酒井英樹・田中真由美　概要：『長野県中学校版CAN-DOリスト（平成26年度モデル）』及び『長野県中学校CAN-DOリスト作成の手引き（平成26年度版）』とCAN-DOリスト作成プロセスについて発表した。
37.探究的実践の修士論文の分析―省察と理解に焦点を当てて―	単	2015年6月	中部地区英語教育学会第45回和歌山大会（於　和歌山大学）	英語教育における探究的実践の修士論文において、教師による「省察」と「理解」の認知的プロセスがどのように記述されているかを分析した。
38.『長野県中学校CAN-DOリスト（平成26年	共	2015年4月	中部地区英語教育学会・長野地区	田中真由美・酒井英樹　概要：小学校・中学校・高等学校における外国語教育の目的はコミュニケーション能力の育成に関わるもので

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
度モデル）』の活用方法―指導と評価における小・中・高の連携を視野に入れて―			2015年度第1回研究会（於　長野県上田高等学校）	あることを踏まえ、小学校外国語活動においても「外国語への慣れ親しみ」として「話すこと」と「聞くこと」についてCAN-DOリストを作成し、パフォーマンス評価をする必要があることを説明した。
39.中学校外国語科CAN-DOリストの形での学習到達目標作成に向けて	単	2015年3月	中部地区英語教育学会・長野地区2014年度第1回研究会（於　信州大学教育学部）	各中学校・高等学校で作成することが求められているCAN-DOリストの形での学習到達目標の例として、長野県教育委員会と連携して作成した中学校版CAN-DOリストとその活用方法について説明した。
40.高等学校英語教科書採択率とタスク数の関係	共	2014年10月	日本教科教育学会第40回全国大会（於　兵庫教育大学）	大森理聡・田中真由美　概要：高等学校英語教科書の採択率と「英検Can-doリスト」の能力記述文に当てはまるタスク数の関係について報告した。
41.Developing a framework of questions for critical reading	単	2014年9月	British Association for Applied Linguistics Annual Meeting 2014 (The University of Warwick, UK)	クリティカル・リーディングを促す発問を作成するための枠組みについて発表した。枠組みはクリティカル・リーディングの定義と、書き手、読み手、その他の読み手の視点からテクストを読むための問いで構成されたものであり、評価する時の規準として使用することが可能であることを述べた。
42.工学専攻の学生による英語とモノ作りを統合させた子ども向け講座の実施	共	2014年9月	日英・英語教育学会第20回研究大会（於　法政大学市ヶ谷キャンパス）	田中真由美・青柳成俊　概要：英語教育と工学教育を統合させた学生による地域の子ども向け公開講座を実施し、学生へのアンケート結果から工学英語教育の在り方について考察した。
43.内容言語統合型学習による工学英語教育の実践と今後の課題	共	2014年8月	公益社団法人日本工学教育協会第62回年次大会（於　広島大学）	モノ作りと英語教育を統合させた授業を工業高専機械工学科5年生に対して実施した。内容言語統合型学習という学習・教授法を取り入れ、内容と言語だけでなく、思考力と協働力を養う活動を行った。
44.英語の授業で文化を扱う際の問題点と可能性	単	2014年6月	第44回中部地区英語教育学会山梨大会（於　山梨大学）	日本の英語教育における文化の扱いを英語教員がどのように捉えているかについてのインタビュー調査結果を報告した。
45.CLIL（内容言語統合型学習）とSFL	単	2014年5月	第11回SFL（選択体系機能言語学）セミナー（於　日光市、日光総合会館）	英語で書かれた中学校理科の教科書のテクスト構造を分析し、CLILの授業における教科特有のジャンルに準拠したタスクや教材の在り方について考察した。
46.Cross-departmental collaboration for international exchange programs and English education	共	2013年9月	The 7th International Symposium on Advances in Technology Education (Nara Prefectural New Public Hall, Nara, Japan)	田中真由美・青柳成俊　概要：高専での国際交流と英語教育に関する学科間連携の取り組みの内、英語エッセイコンテストと国際関係学演習の開講について報告した。
47.長岡高専における学生の英語力向上のための取組みとその成果	単	2013年8月	平成25年度全国高専教育フォーラム（於　豊橋技術科学大学）	高専の学生の英語力を向上させるための4年間に渡る長期的な実践とその成果を報告した。
48.異文化理解の視点によるクリティカル・リーディングのための発問づくり―教授法及び教材開発に向けて―	単	2013年6月	第43回中部地区英語教育学会富山大会（於　富山大学）	学習者の多面的な文化理解を促す英語の教授法開発や教材開発のための指針を示すことを目的に行った異文化理解の視点による高校英語教科書の批判的分析、英語教師へのインタビュー調査、授業実践に関する生徒や観察者からのコメントについて報告した。
49.Dealing with	単	2012年3月	International	英語教科書に関するシンポジウム Symposium on ELT coursebooks:

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
constructed cultural ‘reality’ in Japanese high school coursebooks			Association of Teachers of English as a Foreign Language Conference Glasgow 2012 (Scottish Exhibition & Conference Centre, Glasgow, Scotland)	Past, present and possibleで、教科書を使ったクリティカル・リーディングの方法を説明した。
50. Japanese students' responses to critical teaching of culture	単	2011年10月	1st Interdisciplinary Linguistics Conference (Queen's University Belfast, Northern Ireland)	16歳～17歳の日本人英語学習者に対して行った文化への批判的意識を高めるための英語の授業と、その後実施した文化学習に関するアンケート調査結果について報告した。
51. 長岡高専におけるマークシート採点システムの開発	共	2011年9月	全国高等専門学校英語教育学会第35回研究大会（於京都市、京都テルサ）	土田泰子・自見壽史・占部昌蔵・大湊佳宏・田中真由美 概要：高専英語科の定期テストにおけるマークシート採点システム開発研究として、マークシート方式の活用事例、マークシート方式テストに関する学生への意識調査の結果をまとめた。
52. アジア高等教育機関との交流および地域連携による人材育成	共	2011年8月	平成23年度全国高専教育フォーラム（於　鹿児島大学）	青柳成俊・田中真由美・土田泰子・佐々木徹　他5名「アジア高等教育機関との交流および地域連携による人材育成」プロジェクトで、マレーシア、ベトナム、中国の教育機関との共同プログラミング教育事業、学生海外派遣研修、地域連携による国際交流活動、語学学習支援を行い、これらの取り組みの成果を学生対象のアンケート結果を参考に検討した。
53. Developing a pedagogy for critical teaching of culture	単	2011年6月	14th Warwick International Postgraduate Conference in Applied Linguistics 2011 (The University of Warwick, UK)	日本の高校における異文化理解のための英語クリティカル・リーディング指導法の在り方を探究するために、教科書で扱われる文化に関するテクストにはどのようなイデオロギーが見られるか、文化に関するテクストを授業でどのように扱うべきかについて論じた。
54. Using CDA to read cultural representations	単	2010年11月	The 36th JALT International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition（於名古屋市、愛知県産業労働センター）	日本の文化を扱った英語教科書のテクストの批判的談話分析を行い、その結果を踏まえて実践した英語リーディングの授業について報告した。
55. Comic book culture in the Japanese and global contexts: Critical discourse analysis aiming for its application to	単	2010年9月	British Association for Applied Linguistics Annual Conference 2010 (The University of Aberdeen, UK)	日本の漫画とその世界的広がりを扱ったテクストの批判的談話分析を行い、その結果を基に行った授業の実践報告をした。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
English language teaching				
56.長岡高専学生海外派遣の成果―期待していた成果と予想外の成果―	共	2010年9月	全国高等専門学校英語教育学会第34回研究大会（於 札幌市教育文化会館）	占部昌蔵・大湊佳宏・田中真由美　概要：オーストラリアへの学生派遣研修の成果を英語によるインタビューの分析結果を基に検証した。
57.学科間連携による校内英語エッセーコンテストの実践―初年度の試み―	共	2010年8月	平成22年度全国高専教育フォーラム・教育研究集会（於　長岡技術科学大学）	田中真由美・土田泰子・大湊佳宏・占部昌蔵　概要：工学教育担当教員と英語科教員が連携して開催した英語エッセーコンテストについて報告した。
58.英語検定教科書の批判的談話分析―英語教育への応用を目指して―	単	2009年10月	日本機能言語学会第17回秋季大会（於　同志社大学）	日本の高等学校で使用される英語検定教科書の批判的談話分析を行った。テクストの分析方法として批判的談話分析を用いることや批判的談話分析を英語教育実践に応用する際の問題点についても言及した。
59.「学び合う」英語	共	2009年8月	第5回教室「学び合い」フォーラム2009（於　上越教育大学新潟サテライト）	加藤茂夫・田中真由美・大湊佳宏　概要：英語科における「学び合い」の方法をコミュニケーション能力の育成の観点から考察した。
60.フィードバックがライティングのタスク・パフォーマンスとモチベーションに与える影響	共	2009年6月	第39回中部地区英語教育学会静岡大会（於　常葉学園大学）	田中真由美・松井市子　概要：高校の英語の授業における特定の文法項目を扱ったライティング・タスクに焦点を当て、フィードバックが文法的正確さに与える影響とフィードバックの違いが生徒のモチベーションに与える影響を考察した。
61.ESL/EFLリーディング教科書の批判的談話分析	共	2008年10月	日本機能言語学会第16回秋期大会（於　お茶の水女子大学）	阿部聡・田中真由美 概要：選択体系機能言語学を援用してESL/EFLリーディング教材の批判的談話分析を行った。
62.自由英作文におけるタスクパフォーマンスを高めるプランニングについて	共	2008年9月	全国高等専門学校英語教育学会第32回研究大会（於 渋谷区、国立オリンピック記念青少年総合センター）	田中真由美・阿部聡　概要：日本人英語学習者に自由英作文の課題を与えた後、学習者を個人プランニング群とペアプランニング群に分けた。その後、最初に行った課題と同じ課題に取り組ませ、産出した英文の流暢さと複雑さの違いを検証した。
63.クリティカル・リーディングの指導法：批判的談話分析を応用して	共	2008年6月	第38回中部地区英語教育学会長野大会（於　清泉女学院大学・清泉女学院短期大学）	田中真由美・阿部聡　概要：英語リーディング用テクストの批判的談話分析を行い、分析結果を基に作成したクリティカル・リーディングの活動について報告した。
64.異文化教育の題材としての高校英語教科書分析	単	2004年10月	新潟大学英文学会2004年度大会（於　新潟大学）	高校で使用されている英語Iの教科書で文化がどのように扱われているかを明らかにするために、扱われている国と題材を量的に分析した後、テクストの批判的談話分析を行った。
65.Martin Amisの文体	単	2002年10月	新潟大学英文学会2002年度大会（於　新潟大学）	イギリス現代作家マーティン・エイミスの実験的な語りの文体的特徴を分析した。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.ことば科における絵本読み聞かせの幼小接続モジュール・シラバスの開発	単	2018年8月	公益財団法人博報児童教育振興会第12回児童教育実践についての研究助成・研究成果発表会、発表資料 pp. 40-44 （於　東京	国語科、外国語活動、両教科等の横断的な内容を扱う領域「ことば科」における絵本読み聞かせの実践、幼小接続モジュール・シラバス、読み聞かせガイドの作成の成果を報告した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
			コンファレンスセンター・品川）	
2.技術立国日本におけるものづくり英語コミュニケーション教育モデル	単	2017年7月	第47回2016三菱財団研究・事業報告書（CD-ROM）Ⅱ人文科学研究助成受領者報告・第45回（2015年度）助成金受領者の部 No. 104, pp. 1-7.	公益財団法人三菱財団より助成金を受け行った研究の報告書である。2名の共同研究者（青柳成俊・池田真）と共に、高等専門学校における内容言語統合型学習（CLIL）に基づく「ものづくり英語コミュニケーション教育モデル」を構築することを目的として、海外の工学教育視察、エンジニア等へのインタビュー、科学技術英語のCLILの実践を行った。
3.New ONE WORLD Communication III Teacher’s Manual ワークシート・評価問題編	共	2015年3月	教育出版	高等学校英語検定教科書の教師用マニュアルに付属する評価用問題として、教科書本文の内容理解と新出の語彙・文法に関する問題を作成した。
4.長野県中学校CAN-DOリスト作成の手引き（平成26年度版）	共	2015年3月	長野県教育委員会	長野県教育委員会と連携し、長野県中学校英語教育用CAN-DOリストの作成方法を説明した手引書を作成した。
5.New ONE WORLD Communication II Teacher’s Manual ワークシート・評価問題編	共	2014年3月	教育出版	高等学校英語検定教科書の教師用マニュアルに付属する評価用問題として、教科書本文の内容理解と新出の語彙・文法に関する問題を作成した。
6.New ONE WORLD Communication I Teacher’s Manual ワークシート・評価問題編	共	2013年3月	教育出版	高等学校英語検定教科書の教師用マニュアルに付属する評価用問題として、教科書本文の内容理解と新出の語彙・文法に関する問題を作成した。
7.ジーニアス和英辞典第3版	共	2011年12月	大修館書店	南出康世・中邑光男（編集主幹） 和英辞典の執筆協力・調査協力を行った。
8.文化的視点に基づくクリティカル・リーディング	単	2011年1月	コミュニカティブ・ティーチング研究会平成22年度授業公開（於　長岡工業高等専門学校）	文化的視点に基づく英語のクリティカル・リーディングの授業を公開し、授業について授業参観者らと議論した。
9.批判的談話分析の英語教育への応用	単	2009年5月	STEP 英語情報 5・6月号（財団法人日本英語検定協会）pp. 44-45	批判的談話分析（CDA)を英語リーディングの授業に応用する方法を提案した。
６．研究費の取得状況				
1.英語学習者の思考とエンゲージメントを促すCLILタスクの開発	共	2025年	武庫川女子大学女性研究リーダー育成推進センター	令和7年度「女子総合大学における挑戦的次世代女性リーダー育成プログラム」「架橋横断的重点共同研究」共同研究支援（研究代表者：田中真由美（共同研究者：植村隆、市村勝己、青山拓実、宮崎遼）
2.ブルームの改訂版タキソノミーに基づく高等学校英語教科書の分析―学習者の思考を活性化させる設問と活動の提案―	共	2024年10月	武庫川女子大学女性活躍総合研究所ダイバーシティ推進委員会	文部科学省科学技術人材育成補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」令和６年度異分野交流会共同研究スタートアップ支援費（研究代表者：田中真由美（共同研究者：青山拓実、宮崎遼）
3.英語の母語話者と学習者による言外の意味の解釈と生成－英語教育への示唆－	共	2023年	武庫川女子大学女性活躍総合研究所ダイバーシティ推進委員会	文部科学省科学技術人材育成補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」関西圏女子大学連携プロジェクト異分野交流共同研究シーズ発掘支援経費（研究代表者：田中真由美、共同研究者：盛田有貴、管楓花）英語母語話者と母語が異なる英語学習者の語用論的解釈と表現に関するデータを収集し、分析結果を踏まえて英語教育への示唆を提示する。
4.英語文学テクストを用いた批判的応用言	共	2023年	日本学術振興会	2023年度～2026年度　科学研究費補助金　基盤研究（C）課題番号23K00735（研究代表者：田中真由美、研究分担者：福本由紀子、松

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
語学に基づくクリティカル・リーディング				原陽子）英語文学テクストを用いた批判的応用言語学に基づくクリティカル・リーディングの教材・シラバス・指導マニュアルを開発するために、日本の大学の英語系学科で協働型アクション・リサーチ行う。本研究での英語文学のクリティカル・リーディングとは、テクストにおける社会・文化的な力関係やイデオロギーの表象を、言語分析と自己と他者との対話を通して省察的かつ複眼的に読み解くことである。この研究を通して、英語文学テクストを用いて英語学習者の言語分析力と社会・文化的な批判性を高めることができるかを検証する。
5.企業の経済活動を基軸としたオーセンティックな体系的ビジネス英語教育の基盤研究	共	2021年	日本学術振興会	2021年度～2024年度　科学研究費補助金　基盤研究（C）課題番号21K00722（研究代表者：辻和成、研究分担者：田中真由美、宇佐美彰規）グローバル経営を実践する企業における会議関連ジャンルを注視しながらESPアプローチによる調査研究を行い、これからのビジネス英語教育の礎を目指す。具体的には、企業経営の根幹をなす活動である「国際事業」をディスコース・コミュニティーとみなし、その関連会議のテクスト(口頭・文書）分析を行い、ビジネス現場で必要な英語力を開発する英語教育モデル（教材と学習ストラテジー）を試作し、その有用性を検証・改善を繰り返すことにより、オーセンティックなビジネス英語教育の具体化を目指す。（田中担当：テクスト分析と企業との協働による教材開発）
6.CLILを活用した工学系英語教育：技術者との協働によるものづくり教材・指導法開発	共	2018年	日本学術振興会	2018年度～2022年度　科学研究費補助金　基盤研究（C）課題番号18K00741（研究代表者：植村隆、研究分担者：池田真、青柳成俊、田中真由美、市村勝己）本研究者らはこれまで技術者へのインタビュー等を通じ技術者特有の「ものづくり英語コミュニケーション能力」をモデル化し、技術者に求められる伝達力4レベル（ものづくり英語表現力）を定義した。本研究は、当モデルと「内容言語統合型学習(CLIL)」を活用し、工学系大学院生対象のものづくり英語教育シラバス設計、教材開発、効果検証を行い、論理的で的確な伝達力を育成する工学系英語教育手法を確立する。（田中担当：データ分析 ルーブリック作成等）
7.ことばと文化への気づきを促す英語絵本のクリティカル・リーディング指導法開発	単	2018年	日本学術振興会	2018年度～2022年度　科学研究費補助金　基盤研究（C）課題番号18K00768（研究代表者：田中真由美）本研究の目的は、小学校外国語活動におけることばと文化への気づきを促す英語絵本のクリティカル・リーディングの指導法を開発することである。小学生にとって英語で書かれた本を一人で読むことは困難であるため、ここでいうリーディングとは、読み聞かせを手段として教師と児童が交流しながら共に読むことである。本研究は「ことば」の概念の体系化、ことばと文化に対する気づきを促す英語絵本の選定、クリティカル・リーディングの指導法の実践と検証、クリティカル・リーディングの英語学習と国語科での読むことの学習への影響に関する調査の４段階で構成され、小学校外国語活動におけるリーディングの指導法及び英語教育と国語教育の連携の在り方を提案するものである。
8.ことば科における絵本読み聞かせの幼小接続モジュール・シラバスの開発	共	2017年	公益財団法人博報児童教育振興会	第12回児童教育実践についての研究助成（研究代表者：田中真由美、共同研究者：中村伸哉、小野奈々子、他４名）日本国内の国立大学附属小学校を主なフィールドとして、研究メンバーとALT が絵本の読み聞かせの授業実践を通して、教育内容の整理、指導・評価法の開発、教育育内容の整理を行った。教育内容の整理として、日本語の絵本と英語の絵本を収集し、絵本で使用されている言語にどのような特徴があり、物語の内容に幼児や児童がどのような反応をするかを選書の観点として収集した本の情報をまとめた「ことばの教育のための読み聞かせ絵本のデータベース」を作成した。指導・評価法の開発では、幼児や児童がどのように絵本の内容を理解したり、絵本やことばへの関心を高めたりするのかを明らかにするために、授業の観察とビデオ撮影、児童の振り返りシートの収集、アンケート調査を行った。絵本読み聞かせの指導実践のデータと絵本のデータベースを基に「ことばの教育のための絵本読み聞かせガイド」を作成した。最後に、1年間の指導実践から得られた知見を基に「ことば科における絵本読み聞かせの幼小接続モジュール・シラバ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
				ス」を作成した。（田中担当：全体の統括、教育内容の整理、指導・評価法の開発、教育計画の構築等）
9.技術立国日本におけるものづくり英語コミュニケーション教育モデル	共	2015年	公益財団法人三菱財団	第44回（平成27年度）三菱財団人文科学研究助成（研究代表者：田中真由美 、共同研究者：青柳成俊、池田真）本研究は、高等専門学校における内容言語統合型学習に基づく「ものづくり英語コミュニケーション教育モデル」を構築することを目的とし、海外の工学教育視察、エンジニア等へのインタビュー、科学技術英語の授業実践、言語教育の専門家とのディスカッションを行った。構築した教育モデルは、「ものづくり英語コミュニケーション能力」、「工学を基盤としたものづくりの知識・技能」、「ものづくりのための思考力」、「チームでのものづくり協働力」の4 つの能力を育成するものである。さらに、「ものづくり英語コミュニケーション能力」を、「英語の技能」、「ものづくりの英語表現力」、「英語使用や英語学習への意欲・態度」、「文化についての知識・態度」の4 要素に分化し、それぞれの特徴をまとめた。（田中担当：全体の統括、海外視察、インタビュー等）
10.新課程版高校検定教科書における英検Can-doリストと関連のあるタスク	共	2014年	公益財団法人日本英語検定協会	第26回「英検」研究助成 調査部門（研究代表者：田中真由美、共同研究者：大森理聡）新課程版の高校英語検定教科書内に見られる自己表現タスクと英検のCAN-DOリストの能力記述文の関係性を調査したと。その結果、ほとんどのタスクが英検CAN-DOリストと対応することがわかった。また教師へのインタビューから、教師が生徒の興味や英語力に応じてタスクを修正し、パフォーマンスの評価基準も生徒の英語力などに応じて独自に作成していることがわかった。（田中担当：全体の統括、教科書分析、インタビュー等）
11.クリティカル・リーディングのための英語教授法開発	単	2013年	日本学術振興会	2013年度～2015年度　科学研究費補助金　若手研究(B)　課題番号25770222（研究代表者：田中真由美 ）本研究は、日本の中等教育段階の英語学習者を対象にしたクリティカル・リーディングの英語教授法の開発研究である。クリティカル・リーディングのための枠組み構築と、枠組みを使用した指導事例の作成を行った。クリティカル・リーディングの枠組みは、テクストの書き手、読み手、その他の読み手の視点から、テクストで使用されている表現や情報を根拠に解釈したり、社会文化的コンテクストと関係づけて解釈するためのキー・クエスチョンで構成されている。この枠組みは教師の発問づくりに役立てられるよう作成したものであるが、学習者が自ら読みの観点や問いを作って主体的に読み進めるために役立てられることも示唆された。
12.教科間連携に基づいた共創型防災教育モデルの開発	共	2013年	日本学術振興会	2013年度～2015年度　科学研究費補助金　基盤研究Ｂ　課題番号：25285244（研究代表者：田中敏、研究分担者：廣内大助、村松浩幸、田中真由美、他10名）本研究の目的は防災教育目標と教科等の枠組みに授業資料を蓄積した防災教育データベースを構築し提供することである。学校教員がこれを利用し異なる教科で連携して行う防災教育実践例を企画、実施し、発表した。さらに、防災教育実践を評価するコンピュータプログラムを開発した。このプログラムは本研究プロジェクトのＨＰにて無償でダウンロードできる。（田中担当：英語の授業における防災教育の事例作成）
13.異文化理解の視点による高等学校英語教科書の批判的分析	単	2010年	日本学術振興会	2010年度～2012年度　科学研究費補助金　若手研究(B)　課題番号22720231（研究代表者：田中真由美）日本の高等学校で使用されている英語検定教科書の文化に関するテクストの批判的談話分析と分析結果に基づくクリティカル・リーディングの発問や活動に関するアクション・リサーチを行った。また、授業における教師のテクストの使用方法や生徒のテクストの反応に関する調査も行った。これらの結果を基に、英語教育において教師や生徒が多面的に自文化や異文化の理解を行うクリティカル・リーディングの指導法開発のための指針を示した。
14.ペアで行うプランニングは、自由英作文における流暢さ、複雑さ、正確さを高めるのか：Coh-Metrix	共	2008年	財団法人日本英語検定協会	第21回研究助成 実践部門（研究代表者：田中真由美、共同研究者：大湊佳宏、阿部聡）英語ライティングの学習におけるペア・プランニングが個人プランニング、オンライン・プランニングと比較して有意に効果的であるかについて実験研究を行った。流暢さ、複雑さ、正確さ、結束正の観点で分析したところ、個人プランニングと

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
を用いたテクスト分析				ペアプランニングは流暢さにおいて同様の効果があることが示唆された。（田中担当：全体の統括、データ収集・分析等）

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2024年12月	Mukogawa Literary Review No. 62 査読委員
2.2024年7月	STEAM特別講座「英語を使ったものづくり」（於　兵庫県立加古川東高等学校）
3.2024年4月～2024年7月	Science Conference in Hyogo 英語プレゼン指導（於　西宮市立西宮高等学校）
4.2024年2月	Profectus No. 29 査読者
5.2023年12月	Mukogawa Literary Review No. 61 査読委員
6.2023年11月	出前授業（於　姫路市立琴丘高等学校）
7.2023年10月	出前授業（於　星稜高等学校）
8.2023年7月	出前授業（於　兵庫県立津名高等学校）
9.2023年5月	ポップサーカス（西宮公演）と英語グローバル学科の教育社会連携イベントの企画・引率
10.2022年12月	Mukogawa Literary Review No. 60 査読委員
11.2022年9月	中部地区英語教育学会紀要第52号　査読者
12.2022年8月	AAAL(American Association for Applied Linguistics) Conference 2023 Proposal Reviewer
13.2022年4月～現在	日本英文学会　会員
14.2021年12月	日本CLIL教育学会　The Journal of the Japan CLIL Pedagogy Association (JJCLIL) Vol. 4　査読者
15.2021年9月	中部地区英語教育学会紀要第51号　査読者
16.2020年12月	Mukogawa Literary Review No. 58 査読委員
17.2020年9月	『学校教育センター紀要』第6号（武庫川女子大学）査読者
18.2020年4月～現在	武庫川女子大学英文学会　リーダー（企画、学会誌担当）
19.2019年12月～2021年11月	独立行政法人日本学術振興会 2020~2021年度科学研究費委員会専門委員
20.2019年10月	『学校教育センター紀要』第5号（武庫川女子大学）査読者
21.2019年9月	Mukogawa Literary Review No. 57 査読委員
22.2018年10月～現在	高等学校英語教科書編集委員（開隆堂出版株式会社）
23.2018年4月	日英・英語教育学会 JABAET Journal 22 査読者
24.2017年4月～現在	武庫川女子大学英文学会　会員
25.2017年4月～現在	日本CLIL教育学会 会員
26.2016年11月～現在	中学校英語教科書編集委員（株式会社新興出版社啓林館）
27.2016年10月～2019年3月	日英・英語教育学会　会計
28.2016年9月	中部地区英語教育学会紀要46号　査読者
29.2016年4月～2020年3月	信州大学　中学校・高等学校における英語教育の抜本的改善のための指導方法等に関する実証研究　委員
30.2015年4月～現在	小学校英語教育学会　会員
31.2015年4月～2017年3月	長野県教育委員会　小学校英語モデル開発事業運営指導委員会　委員
32.2015年4月～2016年9月	日英・英語教育学会　役員
33.2015年2月～2015年9月	長野県山之内町役場教育委員会ユネスコスクール申請書類英訳支援
34.2014年9月	中部地区英語教育学会紀要44号　査読者
35.2014年4月～2017年3月	長野県教育委員会　外部専門機関と連携した英語指導力向上事業運営指導委員会　委員
36.2014年4月～2015年3月	長野県教育委員会　家庭学習プロジェクト会議　メンバー
37.2014年4月～2015年3月	長野県教育委員会　長野県中学校CAN-DOリスト作成委員会　委員
38.2014年3月	日英・英語教育学会 JABAET Journal 18 査読者
39.2013年4月～2019年3月	日英・英語教育学会　会員
40.2011年6月	長岡ロータリークラブと連携し長岡市中央図書館に英語多読用図書を寄贈
41.2010年4月	長岡ロータリークラブ例会　英語多読と国際交流に関する講話（於　新潟県長岡市、長岡グランドホテル）
42.2009年10月	国際ロータリー第2560地区・国際親善奨学生オリエンテーション　国際親善活動についての講話（於　新潟県柏崎市、柏崎商工会議所）
43.2009年10月	2009-2010年度国際ロータリー第2560地区・地区大会　国際親善活動についての講話（於　新潟県柏崎市、柏崎総合体育館）
44.2009年4月～現在	British Association for Applied Linguistics　会員
45.2009年4月～現在	全国英語教育学会　会員
46.2008年4月～現在	日本機能言語学会　会員
47.2008年4月～現在	中部地区英語教育学会　会員
48.2005年4月～現在	コミュニカティブ・ティーチング研究会　会員
49.2003年8月～2004年9月	ロータリー財団国際親善奨学生